

小学校における新たな指導システム「兵庫型教科担任制」

小中学校9年間を見据えた
子どもたちにとってよりやさしいシステムの創造



〔も く じ〕

I	はじめに	1
II	実践研究の成果と課題	3
III	「兵庫型教科担任制」の推進について	5
IV	効果的な取組事例	9
	加西市立下里小学校・太子町立太田小学校・神戸市立長田南小学校・姫路市立白鷺小学校 小野市立小野小学校・豊岡市立豊岡小学校・西宮市立鳴尾東小学校・洲本市立由良小学校	
V	参考資料	25

I はじめに

1 「兵庫型教科担任制」の導入の背景 ― 今、なぜ教科担任制なのか ―

近年、国の義務教育に係る諸制度の在り方の検討において、小学校高学年への教科担任制の導入、小中学校にまたがるカリキュラム編成など、小中学校の相互の連携の必要性が指摘されている。こうした背景には、第一に子どもたちの発達段階を踏まえた教育の改善がある。子どもたちの発達に関する研究や学校の経験的な知見では、小学校4年生前後を発達の区切りと見ることが多く、身体的な発達や思春期がはやまっているとされる小学校高学年においては、従来の指導に工夫改善を加えることが必要ではないかとの指摘がある。

第二に、学校間の連携や接続の改善である。いじめや不登校、校内暴力の件数は、中学校1年生で急増する（いわゆる「中1ギャップ」）。また、学習内容の理解度も、小学校と中学校では大きな落差があるとされている。これは、学習内容が高度になるだけではなく、思春期という心身ともに発達課題の多い時期に、卒業や入学などを経て、学習方法や指導が異なる新しい環境に入る際の移行が円滑に行われていないことも要因の一つではないかと考えられている。

これらの課題に対して、中央教育審議会（平成18年2月）においては、小中学校の円滑な接続の観点から小学校高学年における教科担任制の検討の必要性について答申がなされた。また、小学校学習指導要領解説総則編（平成20年3月）にも、指導方法や指導体制の工夫改善など個に応じた指導の充実について、交換授業や専科指導等の具体例が示された。

学級担任制は、教科に関連させた指導や生活・学習習慣の確立のためのきめ細かな指導ができる。一方、教科担任制は、教科内容の高度化への対応や多面的な児童生徒理解が可能となる。

このため本県では、小学校教育における学習指導や生活指導を一層充実させ、小中学校間の円滑な接続を図ることが大切であると考え、小学校高学年において、学級担任制による教育効果を生かしつつ、教科担任制を導入し、小中学校9年間を見据えた子どもたちにとってよりやさしいシステムの創造を目指すこととした。

2 本県の取組 ― 少人数授業や教科担任制のあゆみ ―

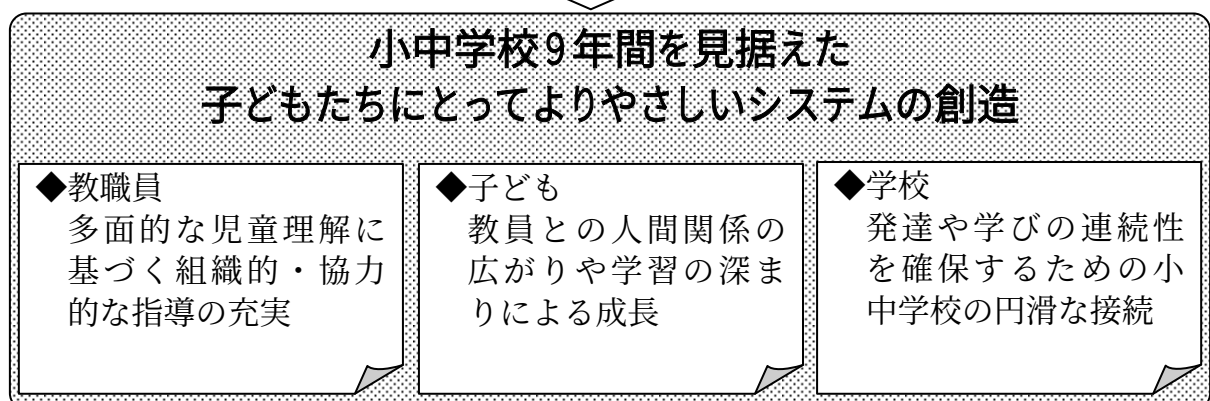
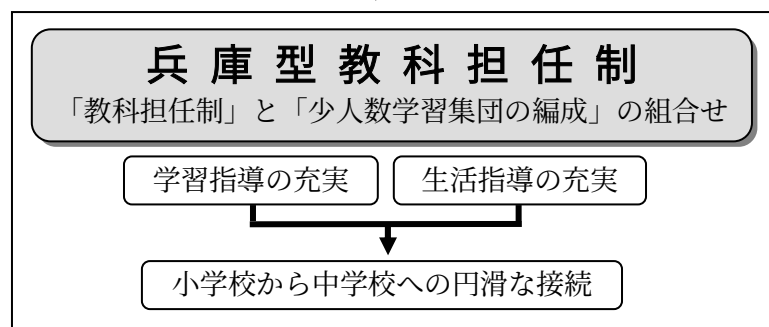
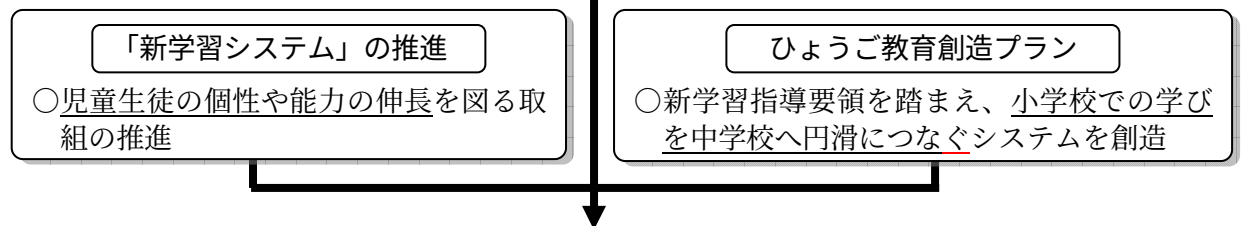
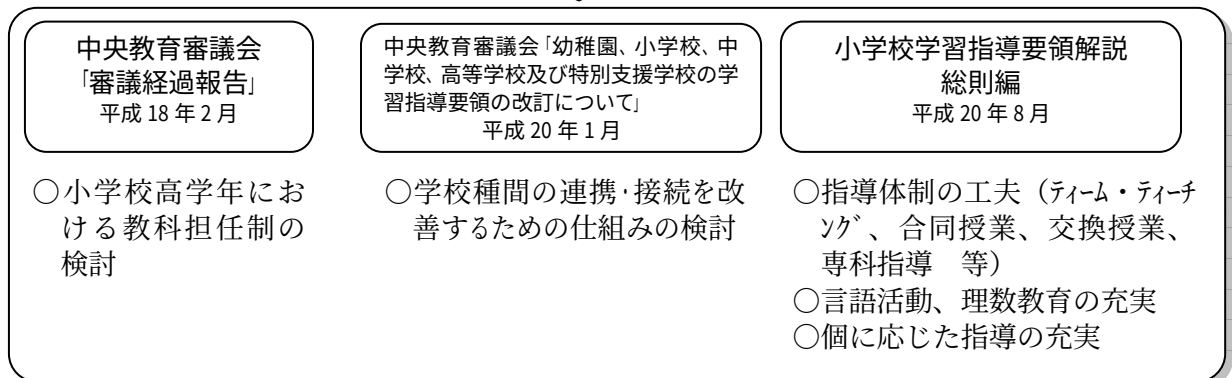
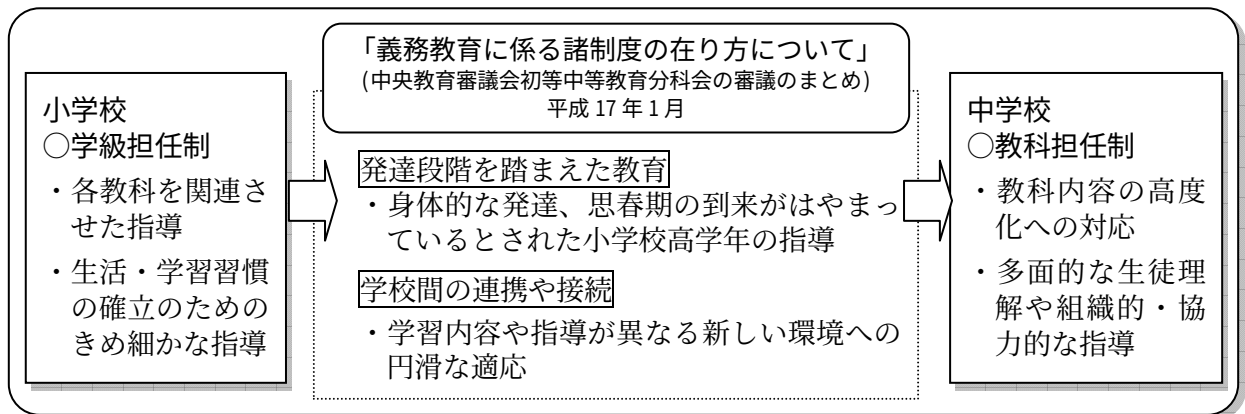
本県では、平成13年度から個に応じたきめ細かな指導や心の安定を図り、多面的な児童生徒理解に基づく指導など、児童生徒の個性や能力の伸長を図ることを目的とした「新学習システム」を推進し、少人数授業とともに小学校高学年における教科担任制を実施してきた。推進校からは、少人数授業について、学習の理解を深めたり学習意欲の向上を図ったりする上で効果が見られ、また、教科担任制については、教材研究の充実や多面的な児童理解に基づく指導に効果があるなどの意見が報告されている。

こうした中、平成21年度から新学習システムの成果や新学習指導要領の趣旨を踏まえるとともに、学力の向上や小学校から中学校への円滑な接続を図るため、「教科担任制」と「少人数学習集団の編成」を組み合わせた「兵庫型教科担任制」の実践研究に取り組んできた。また、学識経験者等で構成する「兵庫型教科担任制」検討委員会を設置し、平成21・22年度の実践研究校における成果と課題を基に、効果的な指導方法・指導体制の在り方等について検討・検証を行ってきた。

3 新たな指導システムの展望 ― 「兵庫型教科担任制」の可能性 ―

この「まとめ」は、平成21・22年度の実践研究校の取組状況や検討委員会の検討内容に基づき、「兵庫型教科担任制」の成果と課題、取組事例等を掲載するとともに、今後、学級規模をはじめとする各学校の様々な実情に応じた円滑な導入を図るため、平成23年度の「兵庫型教科担任制」の推進の方向性について記載したものである。

「兵庫型教科担任制」については、①教員との人間関係の広がりや学習の深まりによる子どもたちの成長、②多面的な児童理解に基づく組織的・協力的な指導の充実、③発達や学びの連続性を確保するための小中の円滑な接続などについての教育効果が期待できる。今後、各学校においてこの「まとめ」を参考として、学校や児童の実情に応じて創意工夫した取組が展開されることを期待している。



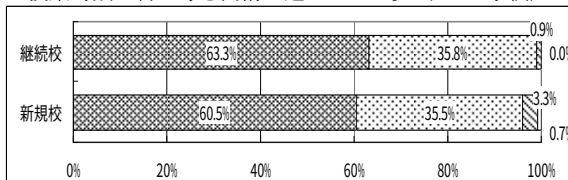
II 実践研究の成果と課題

校内体制

〔 成 果 〕

- 「兵庫型教科担任制」の趣旨を生かした学校運営システムの構築
 - ・ 機能的な校内委員会、部会等の運営
 - ・ 授業時数の管理方法の確立
 - ・ 教科担任制の保護者への啓発
- 組織的な学年経営や教育活動の実施
 - ・ 教員間のコミュニケーションの活性化
 - ・ 教員のチーム意識の向上
- 「兵庫型教科担任制」を契機とした小中連携の取組の工夫
 - ・ 小中学校相互の授業研究の実施
 - ・ 合同研修等の実施
 - ・ 行事等を工夫した児童生徒の交流
 - ・ 中学校教員による出前授業の実施

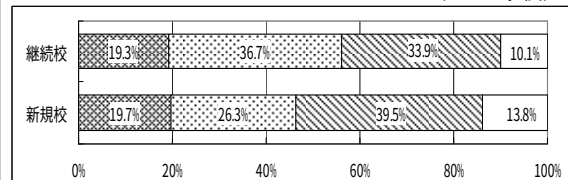
授業時数の管理等を円滑に進めている。(H22：学校)



〔 課 題 〕

- ◇ 「兵庫型教科担任制」を円滑に実施するための具体的な取組
 - ・ 行事や出張等に対応した時間割の調整
 - ・ 学習指導や生活指導に関する打ち合わせの時間の定例化
 - ・ 担当教科を超えた学力向上を観点とした校内研修の推進
- ◇ 「兵庫型教科担任制」の教育効果等を踏まえた小中連携の多様な取組の促進
 - ・ 小学校による「中1ギャップ」等の中学校の状況の理解
 - ・ 中学校による小学校の児童の生活や学習状況等の理解
 - ・ 小中学校双方による指導内容や指導方法等の共有

中学校との連携について、具体的な取組を行っている。(H22：学校)



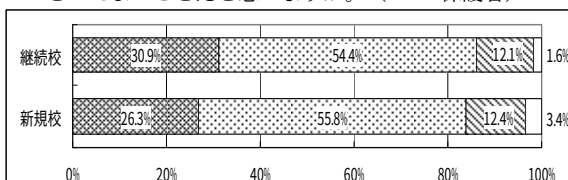
学習指導

〔 成 果 〕

- 教科担任制による指導方法の工夫改善
 - ・ 教材研究の深化や教具の創意工夫
 - ・ 複数の学級での授業実施による授業改善
 - ・ 評価方法等の共通理解
- 少人数授業によるきめ細かな指導の推進
 - ・ つまずきの要因分析や教材の開発
 - ・ 習熟の程度に応じたワークシート等、学習状況の把握を踏まえた指導の工夫

「授業を楽しんでいることが多くなった」(児童：約8割)
 「教えてもらう先生がかわって、よくわかる授業が増えた」(児童：約8割)
 (H22)

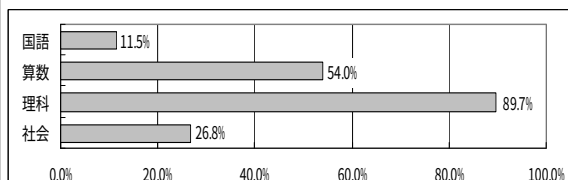
教科によって担当する教員がかわることは、児童にとってよいことだと思いますか。(H22：保護者)



〔 課 題 〕

- ◇ 教科担任制や少人数授業の実施教科の弾力化の工夫
 - ・ 学校の実情に応じた教科選択の在り方
 - ・ 学級数が奇数ある学年等、運用が難しい学校への実施モデルの提示
- ◇ 教科担任制の教育効果を高める取組
 - ・ 学力や学習状況の的確な把握方法
 - ・ 指導計画、教材、教具、児童の成果物等の蓄積と有効活用
- ◇ 多様な少人数学習集団の編成の工夫
 - ・ 学力や学習状況に応じた多様な少人数授業や同室複数指導の工夫
 - ・ 教員の配置形態や指導方法等、学習指導を充実させる指導システムの確立

教科担任制にふさわしい教科 (H22：学校)



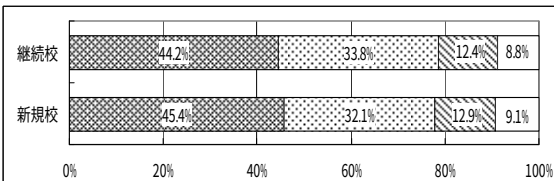
生活指導

〔 成 果 〕

- 学級経営を基本とした学年経営の充実を図る取組の工夫
 - ・開かれた学級づくりの促進による教員の意識変革
 - ・日常の情報交換の活性化や情報共有のための教員間の連携の強化
- 生活指導を充実させるための複数の教員による指導体制や取組の工夫
 - ・児童の問題行動等に対する組織的・協力的な指導の工夫
 - ・教員の多面的な児童理解に基づく児童の「よさ」を伸ばす生活指導の工夫

「児童は学級担任以外の教員と気軽に話ができるようになった」（保護者：約 8 割）
 「担任以外の教員からはげましてもらったり、ほめてもらったりすることがふえた」（保護者：約 7 割）（H22）

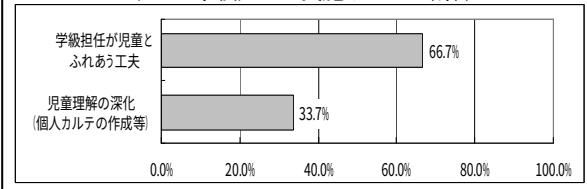
担任の先生以外の先生に気軽に話ができるようになったと思いますか。（H22：児童）



〔 課 題 〕

- ◇ 組織的・協力的な生活指導体制のさらなる工夫
 - ・配慮を要する児童への適切な対応
 - ・突発的、偶発的な事案への対応
 - ・学習・生活規律等の共通ルールの開発・活用
- ◇ 教員の協同性を生かした学級経営の工夫
 - ・学年による道徳や特別活動等の充実
 - ・児童との触れ合いや担任との信頼関係を深める取組の工夫

生活指導に係る具体的な取組について
 (H22：学校) ※実施している割合



※帯グラフの凡例

肯定的 ← 肯定的 帯 → 否定的

全体として

— 成 果 —

「兵庫型教科担任制」は、学校（管理職・教員）、児童、保護者から、学習指導や生活指導において、概ね効果的な指導システムであると評価されている。

- ・ 「兵庫型教科担任制」の取組を通して、学校運営が工夫されるとともに、小中連携について具体的な取組が工夫されつつある。
- ・ 教科担任制による教員の指導方法の工夫改善が図られるとともに、少人数授業によるきめ細かな指導が推進されつつある。
- ・ 学級経営を基本とした学年経営の充実が図られるとともに、生活指導を充実させるための複数の教員による指導体制や取組が工夫されている。

— 課 題 —

「兵庫型教科担任制」の円滑な実施のための制度の確立を図り、教育効果や課題解決の工夫等の普及啓発を行うとともに、小中連携のさらなる促進が必要である。

- ・ 学校の実情に応じた教科選択の弾力化の検討とともに、教員の交換授業や配置形態などを工夫し、より実効性の高い制度として確立することが必要である。
- ・ 「兵庫型教科担任制」を円滑に実施するための取組や課題解決の方策等について普及啓発を図るとともに、小中連携の多様な取組をさらに促進することが必要である。
- ・ 教科担任制や少人数授業の教育効果を高める学習指導や、学級経営を基盤とした組織的・協力的な生活指導の充実のためのさらなる取組の工夫が必要である。

III 「兵庫型教科担任制」の推進について

1 平成22年度「兵庫型教科担任制」検討委員会（提言）

（提言）

- 義務教育9年間を見通して、教員の組織的・協力的な指導体制を促進し、子どもたちの健やかな成長を支える効果的な指導システムである。
- 学級担任制のよさを生かしつつ、各学校の実情に応じて円滑に導入し、実効性あるシステムとして定着させることで、多様な教育効果が期待できる。

（期待される教育効果）

① 教員との人間関係の広がりや学習の深まりによる子どもたちの成長

子どもたちが学級担任との信頼関係を基盤に、複数の教員の指導に触れ、人間関係の拡充や多様な経験を通して、自分への自信を深めたり、責任の自覚や自立心を高めたりするなど、豊かな人間性や社会性の育成が期待できる。

② 教員の多面的な児童理解に基づく、組織的・協力的な指導の充実

子どもたちの成長を支えるため、学習・生活指導において、学級担任を中心として、他の学級担任や担任外教員等との連携による組織的・協力的な指導体制の確立が期待できる。

③ 発達や学びの連続性を確保するための小・中学校の円滑な接続

児童生徒の発達や学びの連続性を確保するため、小中連携を図ることが大切であり、兵庫型教科担任制の取組を進め、小中双方向からの連携を促進することで、いわゆる「中1ギャップ」等の解消が期待できる。

2 平成23年度の「実施教科」

- ◎ 実施教科は、「新学習システム」の成果や新学習指導要領の趣旨を踏まえ、学力向上を図る観点から下記の教科とする。

◆教科担任制

国語、算数、理科、社会から2教科以上選択し、担任の交換授業を実施することを原則とした教科担任制を実施する。

教員の組織的・協力的な指導を充実させる観点から、これまでの小学校における専科指導の成果に加え、学級担任の交換授業を柔軟に促進する。

（例1）2学級の場合、国語と算数の交換、又は社会と理科の交換等

（例2）3学級の場合、社会、理科、体育の交換、又は国語、算数、理科・家庭の交換等

但し、下記については、学校の実情に応じて弾力的に交換授業等を行うことも可能とする。

① 上記教科において専科指導を行っている場合、上記以外の教科を加えて交換授業を実施することも可能とする。⇒①-例2、②-例5

② 5・6年合計3学級や1学年5学級、7学級の場合などは、2学級単位に分割して交換授業を行い、残りの1学級は上記4教科のいずれかで専科指導を行い、その専科指導時数と同程度、学級担任が他の学級（学年）を指導することも可能とする。⇒③-例7、⑤-例9参照

◆少人数授業

算数と理科において、学年や学級を少人数学習集団に編成する少人数授業（同室複数指導を含む）を実施する。

但し、学校の実情により、上記の教科に「国語」を含め1教科以上を選択し、実施することも可能とする。⇒例Ⅰ～Ⅳ

◎ 「兵庫型教科担任制」における教科担当例

【教科担任制：交換授業 例】

※下記の表は、「兵庫型教科担任制」の交換授業について理解いただくために、少人数授業については省いて表記しています。

□ から2教科以上選択 □ は交換授業 ※「外」は担任外教員

①2学級（同一学年、異学年）

例1		国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	A	B	A	A	外	外	A	A	A	A
	5年2組(B)	A	B	B	B	外	外	B	B	B	B

※国語、算数で交換授業（理科、社会の交換授業も可能）

例2		国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年(A)	A	A	外	B	外	A	A	A	A	A
	6年(B)	B	B	外	B	外	B	B	A	B	B

※理科で専科指導する場合、残りの国語、算数、社会から1教科とそれ以外の教科との交換授業も可能

②3学級（同一学年）

例3		国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	A	B	C	A	外	外	C	A	A	A
	5年2組(B)	A	B	C	B	外	外	C	B	B	B
	5年3組(C)	A	B	C	C	外	外	C	C	C	C

※国語、算数、理科・家庭で交換授業

例4		国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	A	A	A	B	外	外	A	C	A	A
	5年2組(B)	B	B	A	B	外	外	B	C	B	B
	5年3組(C)	C	C	A	B	外	外	C	C	C	C

※理科、社会、体育で交換授業

例5		国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	A	A	外	A	B	外	B	C	A	A
	5年2組(B)	B	B	外	A	B	外	B	C	B	B
	5年3組(C)	C	C	外	A	B	外	B	C	C	C

※理科で専科指導する場合、残りの国語、算数、社会から1教科とそれ以外の教科との交換授業も可能

③3学級（異学年）

例6		国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	C	A	外	B	A	A	B	A	A	A
	5年2組(B)	C	A	外	B	B	B	B	B	B	B
	6年1組(C)	C	A	外	B	C	C	B	C	C	C

※国語、算数、社会・家庭で交換

例7		国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	A	A	A	B	外	C	A	A	A	A
	5年2組(B)	B	B	A	B	外	C	B	B	B	B
	6年1組(C)	C	C	外	C	外	C	外	C	C	C

※5年生は2学級で交換授業を行い、6年生は理科で専科指導を行い、専科指導時数と同程度6年担任が5年生の図工を指導

④1学年偶数学級（4・6・8学級など）

2学級ずつ分割し、①に例示する交換授業を実施（但し、6学級の場合は3学級ずつに分割し②に例示する交換授業も可）

⑤1学年奇数学級（5・7学級など）

例8		国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	A	A	A	B	外	外	A	A	A	A
	5年2組(B)	B	B	A	B	外	外	B	B	B	B
	5年3組(C)	C	C	C	D	外	外	C	E	C	C
	5年4組(D)	D	D	C	D	外	外	D	E	D	D
	5年5組(E)	E	E	C	D	外	外	E	E	E	E

※2学級と3学級に区分して交換授業（①・②の組合せ）

例9		国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	A	A	A	B	外	外	A	A	A	A
	5年2組(B)	B	B	A	B	外	外	B	B	B	B
	5年3組(C)	C	C	C	D	外	外	C	C	C	C
	5年4組(D)	D	D	C	D	外	E	D	D	D	D
	5年5組(E)	E	E	外	E	外	E	E	E	E	E

※1～4組は2学級単位で交換授業を行い、5組は理科で専科指導を行い、5組担任が専科指導時数と同程度の図工を指導

【教科担任制＋少人数授業 例】

※下記の表は、交換授業に少人数授業を加えて示しています。

例I	2クラス パターン	国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	A	B/新	A/新	A	外	外	A	A	A	A
	6年1組(B)	A	B/新	B/新	B	外	外	B	B	B	B

※5年、6年ともに算数、理科で少人数授業を実施

例II	2クラス パターン	国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	A/新	B	A/新	A	外	外	A	A	A	A
	6年1組(B)	A/新	B	B/新	B	外	外	B	B	B	B

※5年、6年ともに国語、理科で少人数授業を実施

例III	4クラス パターン	国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	A	A/新	A/新	B	外	外	A	A	A	A
	5年2組(B)	B	A/新	A/新	B	外	外	B	B	B	B
	6年1組(C)	C	C/新	C/新	D	外	外	C	C	C	C
	6年2組(D)	D	C/新	C/新	D	外	外	D	D	D	D

※算数は学年分割による少人数授業、理科は学級分割による少人数授業

※「A/新」は、学級担任Aと「新学習システム」による加配教員との少人数授業

例IV	4クラス パターン	国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合
	5年1組(A)	A	A	A/新	B	外	外	A	A	A	A
	5年2組(B)	B	B	A/新	B	外	外	B	B	B	B
	6年1組(C)	C	C/新	C	D	外	外	C	C	C	C
	6年2組(D)	D	D/新	C	D	外	外	D	D	D	D

※5年は理科、6年は算数において学級分割による少人数授業

※交換授業を実施する教科と、少人数授業を実施する教科が一致しなくても可（例IVの6年）

※例IIIの理科については、学年分割による実施や、週3時間の内、実験・観察等の2時間の少人数授業の実施も可

3 円滑な導入や実効性を高める工夫（例）

① 教育課程の編成や時間割の円滑な変更・調整

◎兵庫型教科担任制の趣旨について全教員の共通理解のもと、学級担任制を基盤にして時間割変更が容易な実効性の高い教育課程を編成する。

1 学級担任と教科担任の連携

- 他学級と自学級の指導時間の調整
- 時間割調整担当者等の校務分掌や指導時間の配慮
- 学級担任と教科担任の役割分担（家庭学習や学習タイムの課題の評価等）
- 教員の得意教科等の配慮
- 担当教科を超えた研究テーマの設定や他教科の授業参観等、校内研修体制の確立

2 学級担任制を基盤とした時間割

- 学級担任の交換授業は同じ時間帯に設定（行事等で変更が容易）
- 時間割編成ソフトや中学校のノウハウの活用

3 計画的・組織的な時間割変更

- 各教科担当の週指導計画に基づく計画的な時間割変更
- 全校的な理解による時間割変更（行事等では学年を越えてカバー）

4 PTAや地域との連携

- PTA総会や学校だよりによる保護者・地域への周知
- 学校評価による定期的な評価

② 教員の負担を軽減する情報交換・会議の運営の効率化

◎校内LANの掲示板を活用したり児童の係活動等を指導したりしながら、情報の内容と共有方法を整理するとともに、必要な会議の定例化を図る。

1 児童の係活動等による他授業内容の把握

- 学級日誌による学習内容、欠席者等の把握
- 教科担任の指導の下、教科係が学習内容や宿題等を連絡黒板に記入

2 毎日の情報交換

- 校内LANの掲示板による職員朝会の縮減（学年打ち合わせの確保）
- 休み時間、放課後を有効活用するため、職員室の座席配置を配慮
- 教材、プリント、周知のための通信類等のファイルの共有化
- 週指導計画による指導内容や進度の共通理解

3 問題行動や事故等への対応

- 管理職、生活指導担当、学級担任、養護教諭等の役割や連絡の明確化
- 教員の指導場所と指導内容等が分かる日程表を職員室、教室に掲示

4 学年会議の定例化

- 週1回学年部会を設定（他部会より優先）
- 指導計画に基づく指導内容や宿題について協議、調整
- 学習計画表で授業内容、宿題等を児童・保護者に周知
- 配慮を要する児童の共通理解と支援の検討

5 個人カルテ等の活用

- 各教科の児童の特性や取組のファイリングによる情報の整理
- 保護者懇談等での活用のための個人カルテ等の作成

③ 小中学校双方向からの連携

◎小中学校双方向の連携のもと、義務教育9年間を通じた学びの系統性を確立する。

1 教育課程の交流

- 進学前後でアンケート実施、分析結果を小中学校で共有
- 小中学校の指導内容の系統性を踏まえたカリキュラムの検討

2 教員の交流

- 合同授業研究会、合同研修会、生徒指導部会の定例化
(学習上のつまづきや生徒指導上の課題を共有)
- 出前授業や相互授業の実施
(小6を中学校教員、中1を小学校教員により実施)

3 児童生徒の交流

- 合同音楽会等、児童生徒の合同授業・合同行事の実施
- 市民体育祭等、小中連携した地域行事への参加
- オープンスクールの実施

④ 多様な学習活動を促進する教科担任制・少人数授業

◎複数の教員で学級を指導する「教科担任制」「少人数授業」の特性を生かし、教材研究の深化、学力や学習状況に応じた指導形態・指導方法の充実を図る。

1 教科担任制

- 同じ教科担当者での指導計画作成、教材研究
- 相互の授業参観による学習規律、学習方法、評価の観点等の共通理解
- 各教科共通の評価シートによる授業研究
- 学級の実態に応じた教材の準備
- 学年児童全員を指導する利点等を生かした指導・評価の工夫改善

2 少人数授業

- 単元や児童の学習状況に応じた指導形態（一斉・同室複数・少人数等）
- 学習集団が固定化、長期化しないことへの配慮
- 複数教員の役割分担によるコース別教材の作成、即時採点
- 少人数グループの担当者の定期的な交代

⑤ 多面的な児童理解に基づく学級担任制を基盤としたチームによる指導

◎児童にとって円滑な教科担任制への移行を図るとともに、複数の教員による多面的な児童理解を生かした組織的・協力的な指導体制を確立する。

1 円滑な教科担任制への移行（配慮を要する児童への対応）

- 1時間目は学級担任が指導するように時間割編成
- 配慮を要する児童は少人数授業の際、学級担任のグループで指導
- 学級担任と児童との連絡ノートの交換
- 休み時間や放課後を活用した担任と児童との触れ合いの時間の確保

2 複数の教員による組織的・協力的な指導

- 学年の教員の役割分担による学校行事の実施
- 学年集会の定例化（指導者は交代）
- 複数教員による家庭訪問、保護者懇談
- 学年教員の協力による放課後や長期休業中の補充学習
- 「がんばり表」の活用、作品の学級通信への掲載などによる、子どもの「よさ」を認める機会の設定

IV 効果的な取組事例

教員間の情報共有、家庭や中学校との連携を図る校内体制の確立

―校内委員会・各種委員会の運営や連携の工夫―

加西市立下里小学校

1 学校の概要

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	1	2	1	2	2	2	2	12
児童数	33	58	30	42	49	56	2	270

◆学校の特色と「兵庫型教科担任制」推進のねらい

本校では、平成21年度から、国語、算数、理科において、「兵庫型教科担任制」を導入している。高学年を2年間のスパンでとらえて、児童に身に付けさせたい力を考え、教員の共通理解と密な情報交換を図り、中学校への円滑な接続・確かな学力の育成・豊かな心をはぐくむ生活指導を目指した取組を行っている。

学習指導では、教科担任が連携して教材研究を行うなど、専門性を生かした授業に努めるとともに、算数における少人数授業、理科における同室複数指導を通して、きめ細かな指導を行っている。また、生活指導では、複数の教員による多面的な児童理解を重視し、児童が自尊感情を高め、よりよい人間関係を構築していけるよう、協力して指導にあたっている。

2 「兵庫型教科担任制」の取組

教科担任制 国語、算数、音楽、家庭

※「教科担任制」における下線は、担任の交換授業、
下線外は担任外の指導（以下の事例も同様）

少人数授業 算数 理科



推進上のポイント

①「兵庫型教科担任制」の推進体制

- ・兵庫型教科担任制推進委員会を核とし、他の委員会との連携及び教員間での共通理解を図る。
- ・国語担当教員のノート点検等の時間確保のため、書写の時間は担任外教員が指導する。

②「確かな学力」をはぐくむ学習指導

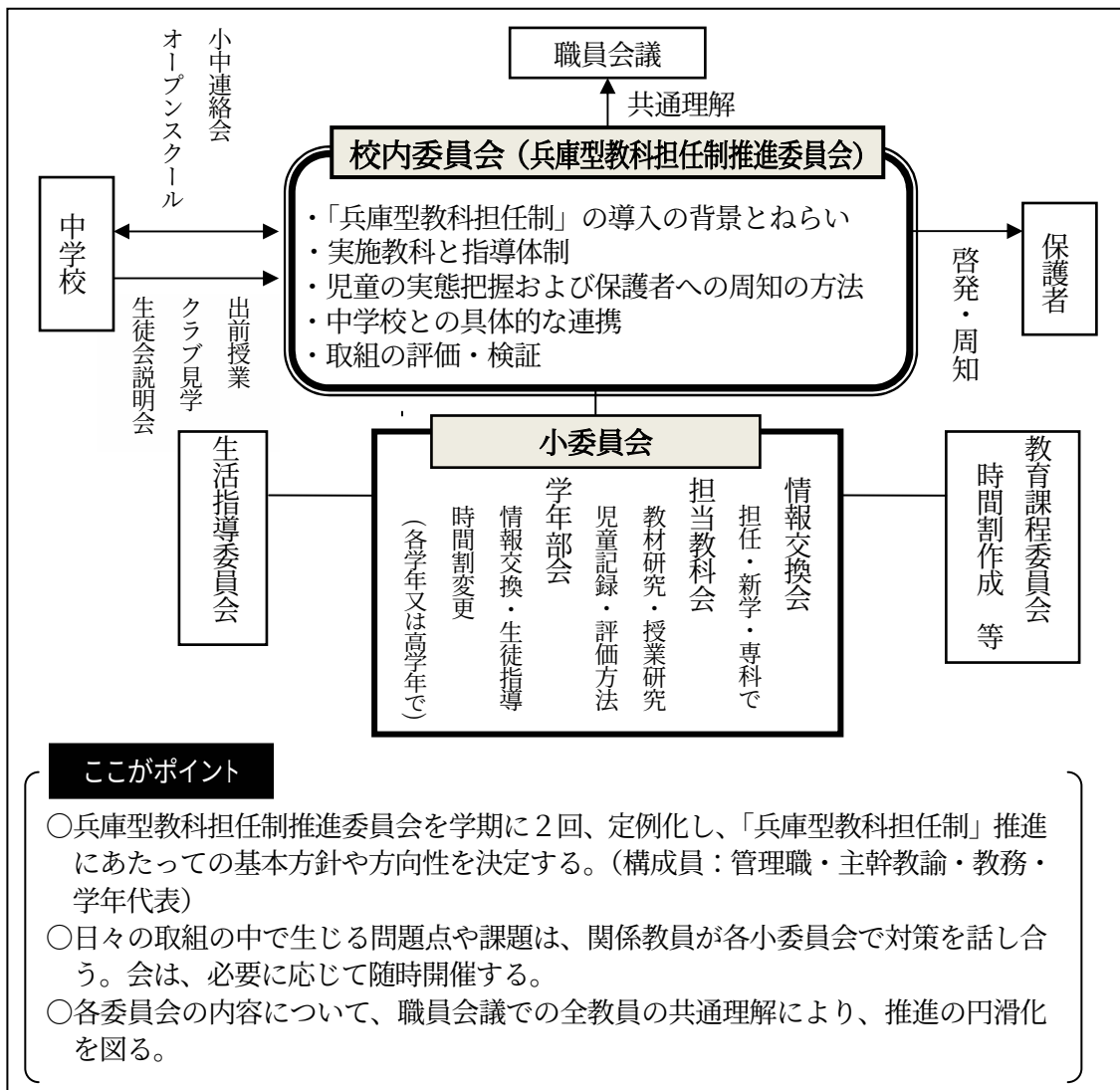
- ・算数ではクラスを2分割し、単元により単純分割や習熟の程度に応じた分割を行う。
- ・教材研究は、国語、算数とも、担当教員が5・6年合同で行う機会を設ける。

③「豊かな心」をはぐくむ生活指導

- ・高学年2年間のスパンで考えた生活指導等の目標を作成し、具現化を図る。
- ・金曜日の放課後は、児童の状況に関する情報交換会を他の会議に優先して実施する。

校内体制の推進を中心とした事例

3 研究テーマに即した具体的な取組



4 実践研究を通して

成 果	課 題
○2年スパンの目標設定と指導体制の統一化により、指導が効果的に行えた。 ○関係者が随時小委員会を開くことで、より児童の実態に即した課題解決ができた。 ○児童の学習意欲及び高学年としての意識が向上した。	◇高学年2年間のスパンでとらえたカリキュラムの充実 ◇小委員会の時間確保と各委員会の有機的な結び付き ◇中学校とのより密な連携（培いたい力・指導方法等）

今後の重点的な取組

- ★PDCAサイクルの手法による児童記録の活用、教科担任制の有効性等の検証と次年度の構想の明確化
- ★各委員会の有機的な結び付きを強化し、校内協同体制の更なる充実
- ★5・6年生～中学生という長いスパンでとらえた児童育成を目指す小中連携の実施

大規模校における教科担任制の効果的な推進

－協同的な学年運営の工夫－

太子町立太田小学校

1 学校の概要

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	6	6	7	6	5	5	4	39
児童数	189	179	214	182	168	163	15	1,110

◆学校の特色と「兵庫型教科担任制」推進のねらい

本校は、児童数 1,000 人を超える大規模校であり、学年で目標、学習の進度、教材等において同歩調がとれるよう、学年団を中心とした指導体制が続けている。近年は児童の実態も多様化し、学級担任制を生かしながらも、互いの学級の様子を分かり合い、複数の教員で指導していくなど開かれた学級経営が必要となってきた。そこで、今年度は教科担任制を取り入れることにより、高学年の児童に対するさらにきめ細かな学習・生活指導の推進に取り組んだ。

2 「兵庫型教科担任制」の取組

教科担任制 算数、理科、社会、
音楽、図工、家庭

少人数授業 算数、理科



推進上のポイント

①「兵庫型教科担任制」の推進体制

- ・担当教科と指導時間数を検討し、どの教員も全ての学級の指導にかかわれるように考慮した。
- ・時間割を色分けし、担任や児童の動きが分かるように工夫した。

②「確かな学力」をはぐくむ学習指導

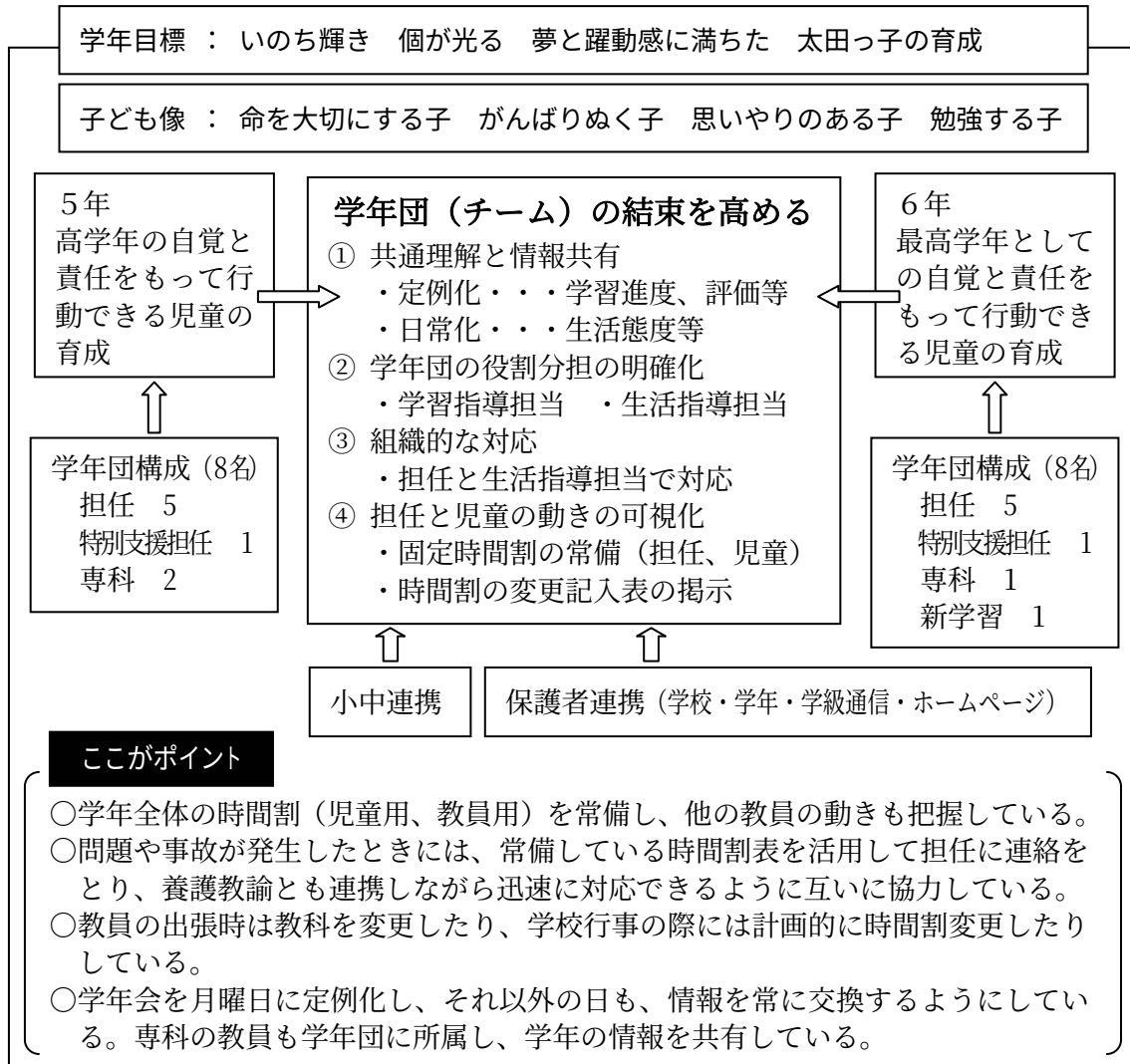
- ・空き教室がなく少人数指導ができないため、算数、理科とも同室での複数指導を工夫した。
- ・算数では、複数の教員で机間巡視、個別指導、ノート点検、評価を分担するとともに、理科では、複数の教員で準備や実験を行い、きめ細かな指導と合わせて、安全面にも配慮した体制をとった。

③「豊かな心」をはぐくむ生活指導

- ・気になる児童について、職員朝会後の打ち合わせで確認をするとともに、情報を下校後も伝え合い、情報交換を密にした。
- ・自然学校、修学旅行などの全体場で、どの教員も中心となって指導に当たれるようにした。

校内体制の推進を中心とした事例

3 研究テーマに即した具体的な取組



4 実践研究を通して

成 果	課 題
○担任外であっても、授業でかかわっているからこそ、児童のかかわりやフォローができる。 ○複数指導の教科では、効果的・効率的な指導ができ、児童の把握もしやすかった。 ○生活指導では、多くの教員でかかわり、児童の様子や変化に気付きやすく、迅速な対応ができた。	◇5・6年生の専科教員を増やすと、他学年への配当時間が減少 ◇急な時間割変更や行事のある時の時間割配当、教員の配当 ◇個別指導をする時間の確保（学習面・生活面）

今後の重点的な取組

- ★教科担任制についての全学年での共通理解に基づく指導体制の確立
- ★行事や学校全体の動きに対応した時間割の工夫
- ★学年会議を通したきめ細かい指導計画と児童理解
- ★教員の専門性を生かした指導法の研究と学習環境（特別教室や教具の確保）の整備

指導観・学力観の違いを乗り越える小中連携の取組

—小中合同研修会・生徒指導情報交換会等の工夫—

神戸市立長田南小学校

1 学校の概要

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	2	2	2	1	2	1	2	12
児童数	46	46	39	34	42	37	4	248

◆学校の特色と「兵庫型教科担任制」推進のねらい

本校は、経済的に厳しい家庭、単親家庭、在日韓国・朝鮮人、ベトナム人など外国籍の家庭が多く、夜遅くまで子どもだけで過ごす家庭も少なくない。このため、児童の学力や生活の状況を共有し、基礎学力の定着と向上を図り、常に向上心をもった児童を育てるため、従来から、毎週金曜日には、全教員による「合同打合せ会」に取り組んでいる。学校への教育の依存度が高い保護者の要望にも応え、複数の教員が児童とかかわるとともに、教科毎に教員が替わる経験を通じて、小中学校の円滑な接続を図り、「中1ギャップ」が軽減されることを期待し、「兵庫型教科担任制」を導入することにした。

2 「兵庫型教科担任制」の取組

教科担任制 算数、理科、社会、体育、
音楽、図工

少人数授業 算数 理科



推進上のポイント

①「兵庫型教科担任制」の推進体制

- ・「力のある学校をつくる」をテーマに中学校と連携した教科のカリキュラム作成
- ・新学習システム推進教員と担任、担任外教員による6教科の教科担任制に取り組む時間割の工夫

②「確かな学力」をはぐくむ学習指導

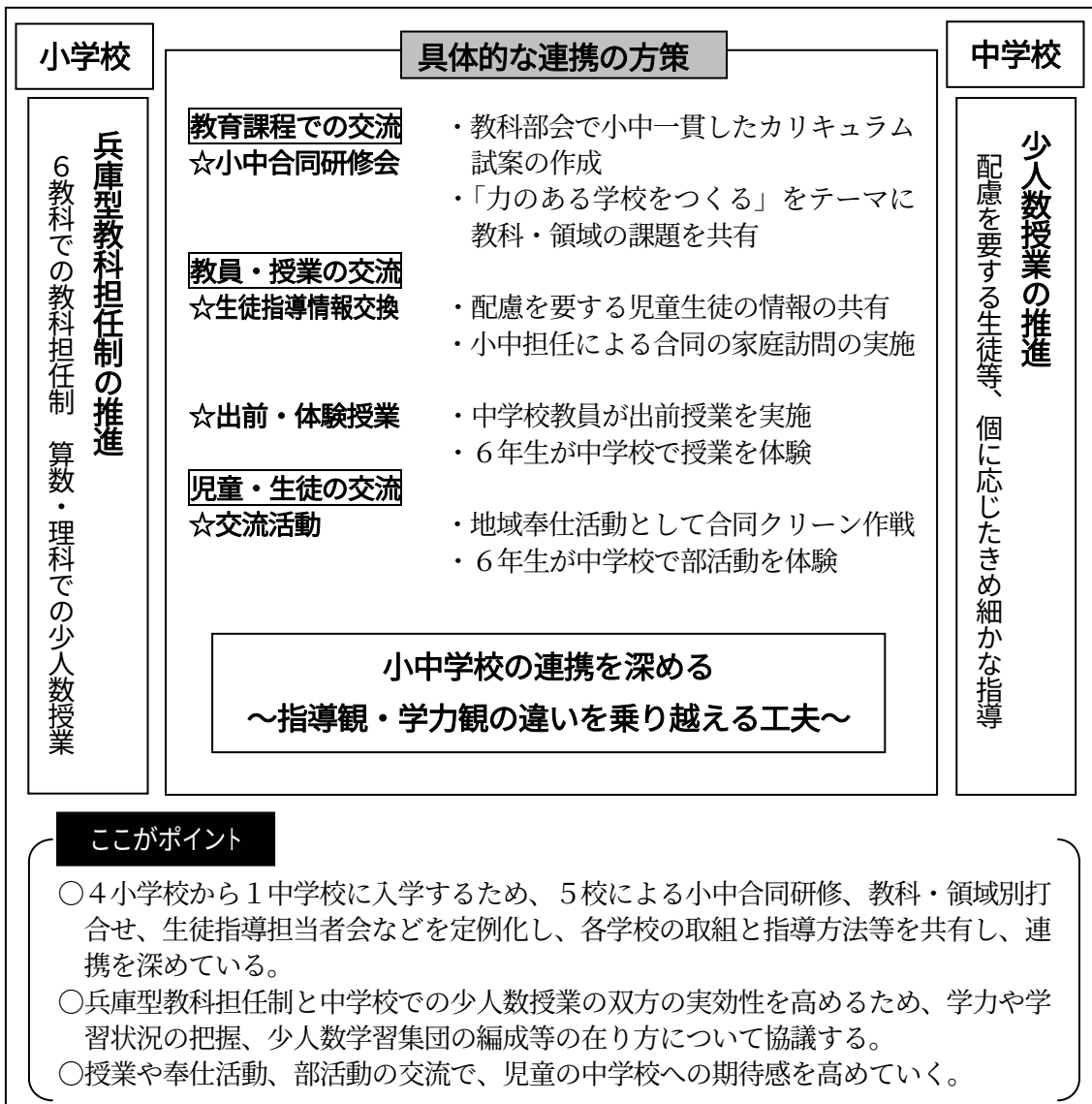
- ・配慮を要する児童（学習状況等）の個人カルテの作成・活用
- ・児童のやる気や集中力の向上を目指した少人数学習集団のグループ編成の工夫

③「豊かな心」をはぐくむ生活指導

- ・組織的な生活指導を目指し、毎週金曜日に全教員で行う「合同打合せ会」の実施
- ・配慮を要する児童に対する全教員による協同体制

小中連携を中心とした事例

3 研究テーマに即した具体的な取組



4 実践研究を通して

成 果	課 題
○小規模校の特性を生かしてきめ細かな小中連携の取組を具現化できた。 ○中学校での教科のつまずきの状況等を「兵庫型教科担任制」に生かしている。 ○配慮を要する児童・家庭に、小中学校が連携し、手厚くフォローしている。	◇該当学年だけでなく、小中学校の全ての教員が本取組の目的を理解すること。 ◇担任への依存度の高い保護者に兵庫型教科担任制のよさを理解してもらうこと。 ◇新学習システム担当教員（非常勤）の授業日の調整や、打合せ時間の確保。
今後の重点的な取組	
★小中合同研修、教科・領域別打合せ、生徒指導担当者会などの継続的な取組の推進 ★学力や学習状況を共有し、配慮を要する児童・家庭へのかかわりの協力的な取組 ★始業前や休み時間、給食などの時間の活用、職員室の座席配置等による情報交換の工夫	

9年間の学びを意識したカリキュラムや指導法の開発

—小中合同研修や児童生徒の交流の工夫—

姫路市立白鷺小学校

1 学校の概要

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	4	4	2	2	2	2	1	17
児童数	116	110	68	72	78	72	4	520

◆学校の特色と「兵庫型教科担任制」推進のねらい

昨年度4月、城南小学校と城巽小学校が合併統合し、小中一貫教育推進モデル校として開校した。児童は、姫路市内各地から登校している。小学校高学年における教科担任制を取り入れ、中学校への円滑な接続を図るよう取り組んでいる。小学校教員による中学生への指導や、中学校教員による小学生への指導等の「乗り入れ授業」も行っている。これらの取組により、「中1ギャップ」の解消を目指している。

2 「兵庫型教科担任制」の取組

教科担任制 国語、算数、理科、音楽、
図工、家庭、外国語活動

少人数授業 算数、理科



推進上のポイント

①「兵庫型教科担任制」の推進体制

- ・中学校教員の専門性を生かした教科担任制推進（小中学校教員の相互乗り入れ授業）
- ・義務教育9カ年を視野に入れた本校独自の教育課程の編成

②「確かな学力」をはぐくむ学習指導

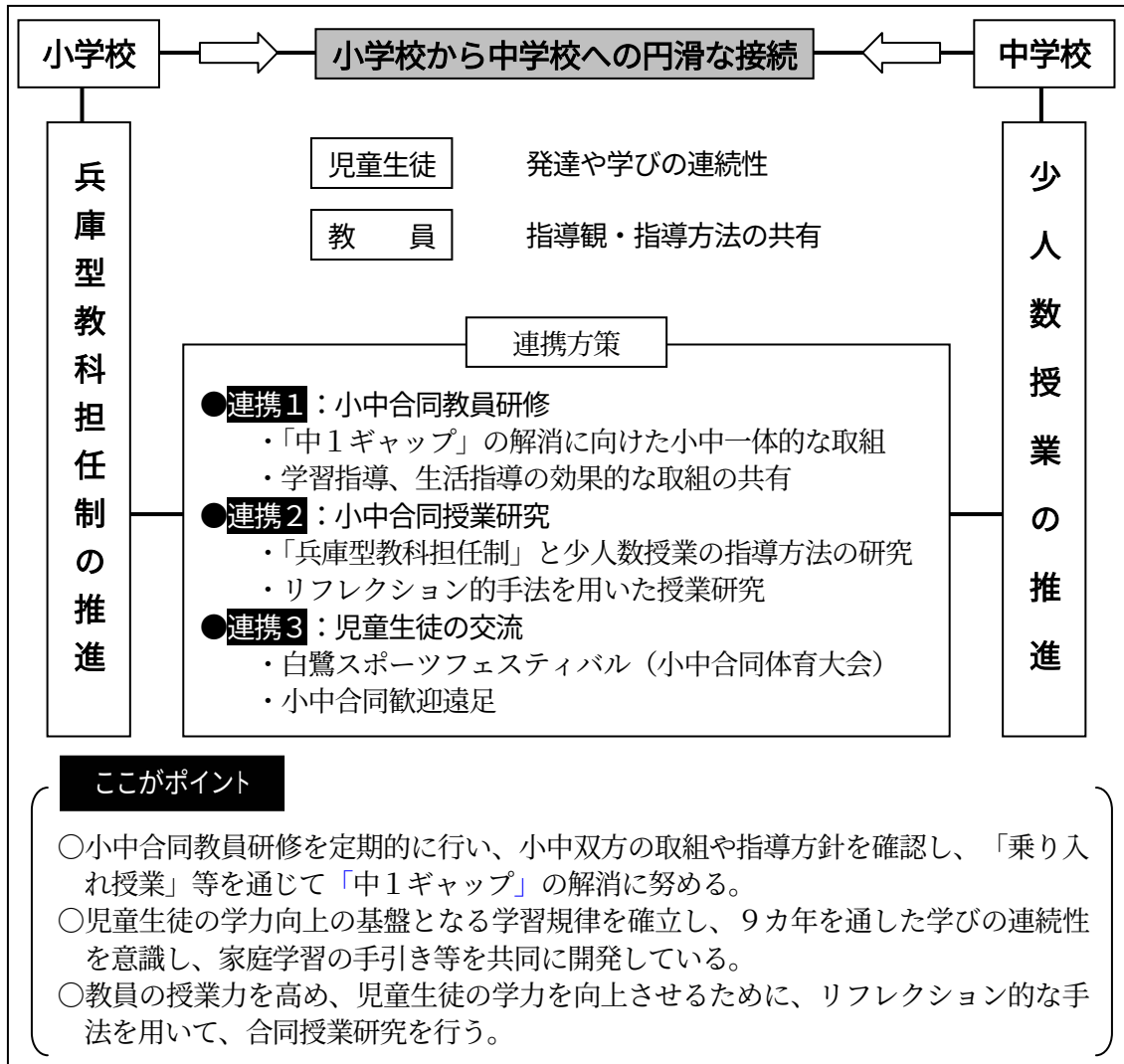
- ・教員の得意分野を生かした教科指導の工夫
- ・学習内容による少人数授業と同室複数指導の柔軟な使い分け

③「豊かな心」をはぐくむ生活指導

- ・組織的な生活指導を充実させるため、学習規律や学校生活のきまり等の共通理解を図る工夫
- ・「乗り入れ授業」を核としたクラス間、小中学校間における子ども理解のための工夫
(情報交換の日常化)

※「乗り入れ授業」… 小中学校教員による交換授業

3 研究テーマに即した具体的な取組



4 実践研究を通して

成果	課題
○中学校進学時、学習に対する不安を感じていない。(中学1年生対象アンケート) ○全国学力・学習状況調査の結果からも、学力の向上が見られる。 ○小中合同行事などの実施により、自己有用感の高まりを感じる。	◇教科担任の授業が増えたため、学級担任が児童の授業中の様子をつかみにくくなった。 ◇「乗り入れ授業」を行っているため、学校行事等による授業変更が頻繁にある。 ◇教員の授業力向上に向けた組織的な取組(授業研究)ができにくかった。

今後の重点的な取組

- ★教科担任と学級担任の情報交換の時間を確保する。
- ★時間割編成・変更の基本的な考え方やシステムを見直す。
- ★研究テーマや研究授業の在り方を明確にする。

基礎・基本の確実な定着を図る教科担任制の推進

—教科担任と学級担任の連携の工夫—

小野市立小野小学校

1 学校の概要

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	4	4	4	4	4	3	2	25
児童数	108	129	117	115	126	106	9	710

◆学校の特色と「兵庫型教科担任制」推進のねらい

小野市は、今年度より市内すべての小学校で「兵庫型教科担任制」に取り組んでいる。本校は、従来、理科、音楽、家庭科等で、専科教員による指導を行ってきたが、本年度から算数・理科を中心に兵庫型教科担任制を導入することにより、一人一人が意欲的に取り組む学習と基礎・基本の確実な定着を目指している。教科担任制と算数・理科の少人数授業により複数の教員が各学級にかかわることで、多面的に児童理解を図り、複数の教員間での情報交換を行うことを通じて、個に応じた効果的な指導を行っている。また、若手教員が増加したことにより、教科担任制における指導力向上を図る観点から、学年会を定例化している。

2 「兵庫型教科担任制」の取組

教科担任制 国語、算数、理科、社会、
音楽、図工、家庭

少人数授業 算数 理科



推進上のポイント

①「兵庫型教科担任制」の推進体制

- ・教科担任制については各教員の専門性や得意な教科を考慮して決定している。
- ・複数の教科を組み合わせ、教員によって持ち時間に軽重のないようにしている。

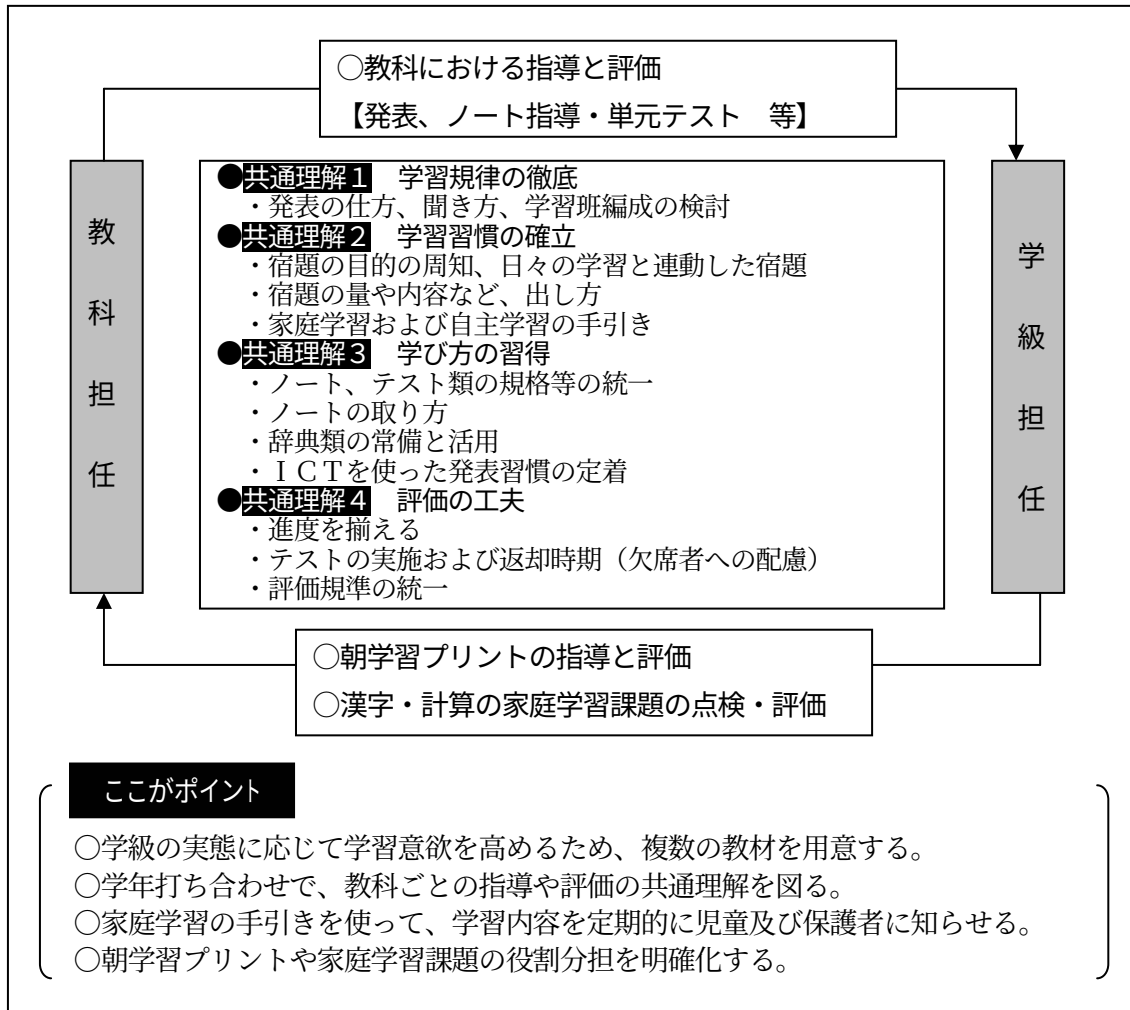
②「確かな学力」をはぐくむ学習指導

- ・発表の様子やノート指導の情報交換を行い、指導や評価の共通理解を図っている。
- ・教材を複数学級に応用するが、学級の実態に合わせて資料類を準備し、指導方法を工夫している。

③「豊かな心」をはぐくむ生活指導

- ・年度当初や学期ごとに全教員で配慮を要する児童への共通理解を図り、共通対応を行っている。
- ・時間割編成において、1時間目は学級担任が指導するように配慮している。

3 研究テーマに即した具体的な取組



4 実践研究を通して

成 果	課 題
○理科に興味・関心をもつ児童が増え、算数等で学習面の不安をもつ児童の支援もできた。 ○教員の得意分野を生かして指導を充実させるとともに、教員間で苦手な教科を補い合えた。 ○理科実験では、学習規律が保ちやすく進行もスムーズになり、安全が確保された。	◇教育課程の編成が複雑で、時間割変更には工夫が必要 ◇各学級での即時対応が必要な生活指導や学級指導の時間確保 ◇担当外教科の授業における児童の様子把握

今後の重点的な取組

- ★前年度末に時間割編成会議をもち、時間割の変更方法や手続きを明確にし、次年度のスタートをスムーズにする。
- ★生活・学習状況の情報交換会を短時間で行い、回数を増やす。
- ★提出物等の学習状況の情報交換内容を電子化し、共有情報とする。

多様な学習集団による学習指導の充実 —課題別選択コース学習など少人数指導の工夫—

豊岡市立豊岡小学校

1 学校の概要

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	3	2	3	3	3	3	2	19
児童数	81	67	74	80	89	95	3	489

◆学校の特色と「兵庫型教科担任制」推進のねらい

本校は「『させられる自分』から『する自分』へ」を学校教育目標として、主体的に学ぶ児童の育成を目指している。課題に対して真面目に取り組むが、自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童も少なくなく、自ら考え表現する力の育成に課題が見られる。

そこで、「兵庫型教科担任制」のもと、「学級で育てる」から「学年で育てる」、そして「学校で育てる」を合言葉に、協同体制の中で、システムと授業づくりの一体化を図り、少人数を生かした指導法等を研究・実践しながら、児童の思考力・表現力を高め、主体的に学ぶ児童の育成を目指した。

2 「兵庫型教科担任制」の取組

教科担任制 算数、理科、音楽、
体育、家庭

少人数授業 算数 理科



推進上のポイント

①「兵庫型教科担任制」の推進体制

- ・ 共同で教材研究等を行う時間の設定（毎週木曜日の放課後に教科担当者会を設置）
- ・ 出張等にも対応できる学級担任と連携した協同的な学習指導体制

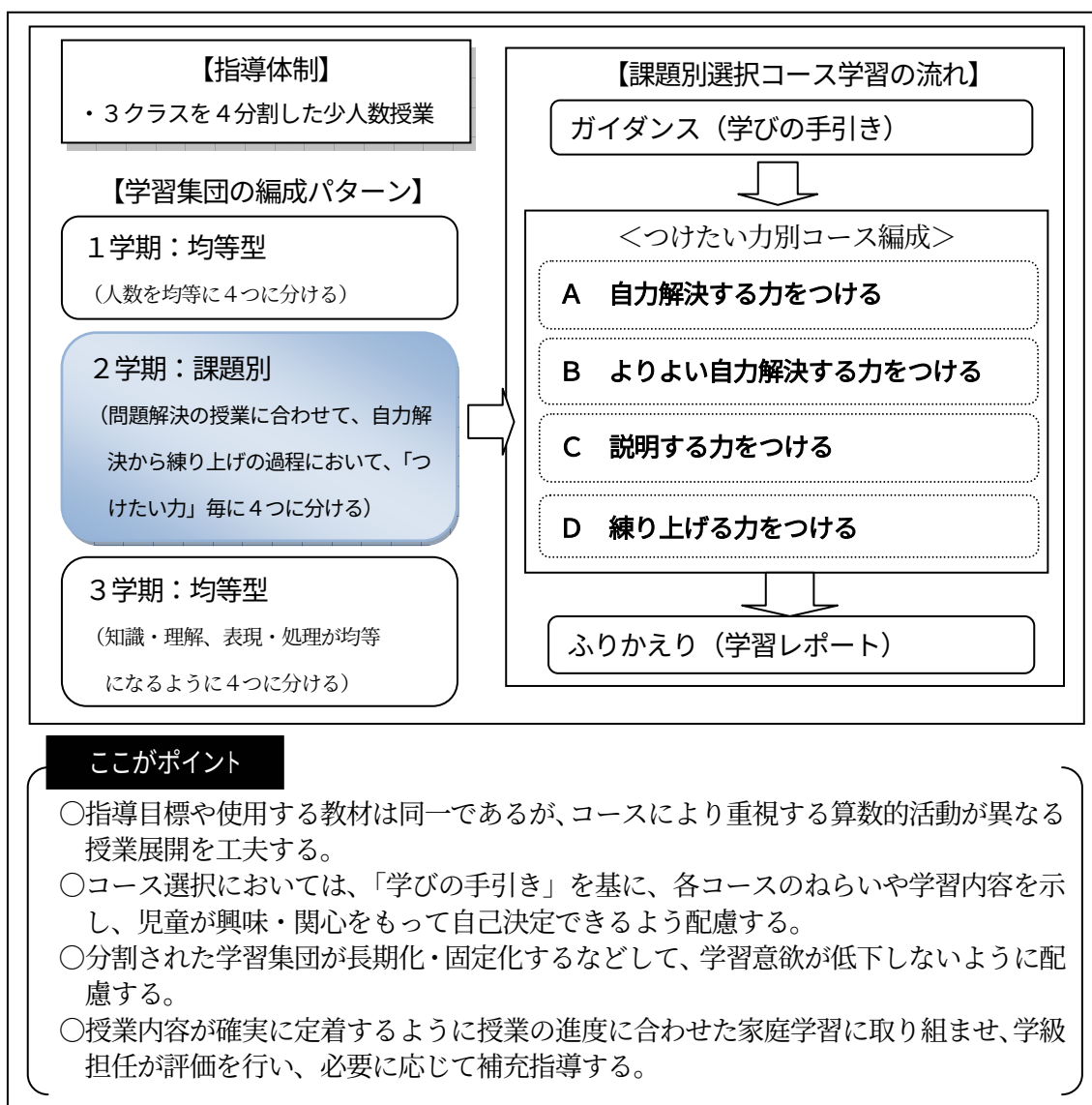
②「確かな学力」をはぐくむ学習指導

- ・ 児童の課題意識に基づく学習集団の編成と指導方法の工夫
- ・ 評価に偏りが出ないように、学期初めに評価項目を決定し評価規準を設定

③「豊かな心」をはぐくむ生活指導

- ・ 学級担任が自学級の子どもたちとかかわれる時間の設定の工夫
- ・ 心理テスト（Q-U）を活用した学級経営についての相互評価と改善策の検討

3 研究テーマに即した具体的な取組



5 実践研究を通して

成 果	課 題
○少人数授業により、言語活動が充実し、主体的に学ぶ児童が増えてきている。 ○個に応じた支援により、基礎的・基本的な知識・技能が定着してきている。 ○多くの教員による多面的な児童理解を図ることができる。	◇少人数学習集団を生かした効果的な学習内容や指導方法の研究 ◇取組の評価内容や方法の明確化と検証システムの確立 ◇配慮を要する児童へのよりきめ細かな指導を図るための教員間連携
今後の重点的な取組 ★年間を見通した指導計画と少人数学習集団の編成方法の検討 ★「子どもの学力の向上」という観点からの取組の評価・検証 ★児童理解のための情報の共有化と個に応じた指導の充実	

学年組織を中心とした協同指導体制の構築

－複数の教員で児童に関わる児童の工夫－

西宮市立鳴尾東小学校

1 学校の概要

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20
児童数	106	104	101	93	103	87	5	599

◆学校の特色と「兵庫型教科担任制」推進のねらい

本校の児童は、興味のあることや面白さを見出したことについては夢中になって取り組むことができる児童が多い。学習面で配慮の必要な児童も、分かりやすく目標や手順を提示することで、興味をもって取り組むことができる。

そこで、「兵庫型教科担任制」による教科担任制や少人数授業を推進し、よりきめ細かな指導を通して「わかる」「できる」授業の創造に努め、学力向上を目指している。また、教員の共通理解に基づき、学年組織を中心に学校全体の協同指導体制を築き、学習指導や生活指導を充実させ、中学校への円滑な接続を図る。

2 「兵庫型教科担任制」の取組

教科担任制 算数、理科、社会、音楽、図工

少人数授業 算数 理科



推進上のポイント

①「兵庫型教科担任制」の推進体制

- ・「兵庫型教科担任制」の趣旨を生かし、複数の教員でかかわる指導を中学年でも実施
- ・設定している打ち合わせ時間以外にも、日常的に何でも話し合える教員集団づくり

②「確かな学力」をはぐくむ学習指導

- ・教科担任と学級担任が共通様式の「評価シート」を記入し、児童の学習状況の把握
- ・少人数学習集団の編成（学級分割）は、概ね单元ごとに集団を編成し、固定化しないように配慮

③「豊かな心」をはぐくむ生活指導

- ・生活指導上の問題の素早い情報交換による早期発見・早期対応

3 研究テーマに即した具体的な取組



4 実践研究を通して

成 果	課 題
○5・6年生の学習内容の系統的な指導や評価方法について共通理解を図ることができた。 ○評価規準の統一により、指導と評価の一体化を進めることができた。 ○情報交換が密になり、児童理解に基づく指導を行うことができる。	◇高学年での取組の成果を他学年に広げること ◇教科担当から学級担任への評価の伝え方 ◇課題解決に向けた具体的方策を検討する時間の確保

今後の重点的な取組

- ★低・中・高学年の系統的な指導体制づくり
- ★効率的・効果的な「評価シート」や「児童の個人記録」の開発
- ★日常的な情報交換を踏まえた課題解決に向けた打ち合わせの定期的な開催

多面的な児童理解を根底にすえた生活指導の在り方

—教員間連携や教育相談体制の工夫—

洲本市立由良小学校

1 学校の概要

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
児童数	13	19	32	21	24	31	3	143

◆学校の特色と「兵庫型教科担任制」推進のねらい

本校は、全教員が児童理解を基本にした生活指導の推進を共通理解し、自己の可能性に挑戦する児童の育成に取り組んでいるが、依然として基本的生活習慣の乱れ等から学習意欲に欠ける児童も少なくなく、基礎学力の確実な定着に課題が見られる。

そこで、「兵庫型教科担任制」を活用し複数の教師が児童一人一人を多面的にとらえ、生活指導の充実を図ることで、より一層のきめ細かな指導を推進することにより児童の学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。

2 「兵庫型教科担任制」の取組

教科担任制 国語、算数、社会、
音楽、家庭

少人数授業 算数 理科



推進上のポイント

①「兵庫型教科担任制」の推進体制

- ・高学年だけの取組にとらえず、全教員による導入目的の共通理解。
- ・5・6年だけの時間割の変更が困難であるため、学校全体での時間割の変更。

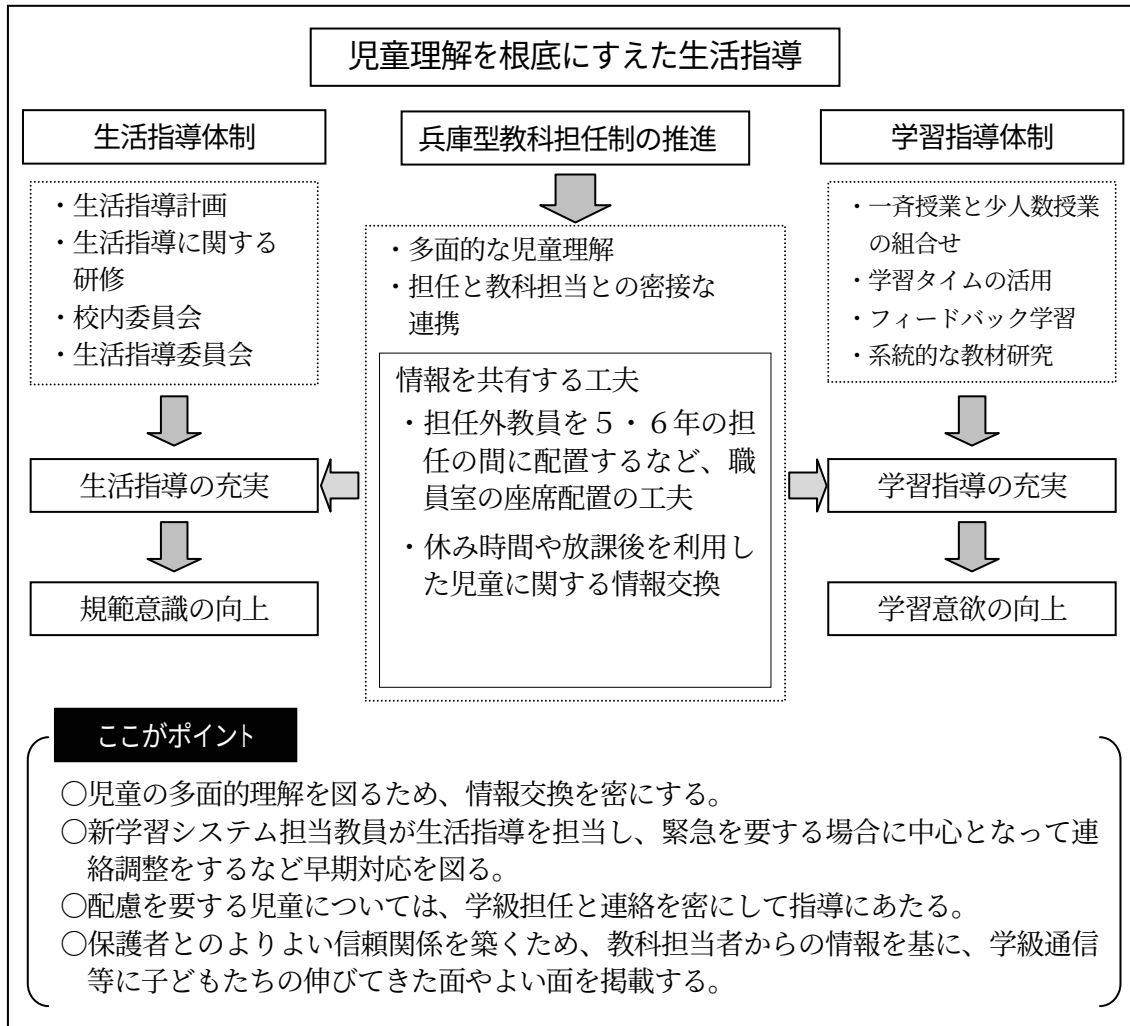
②「確かな学力」をはぐくむ学習指導

- ・2学年にわたる単元の配列を考慮した指導体制の充実と学習意欲を高める工夫を図る。
- ・ICT等の活用や、少人数と一斉授業の適切な組合せ等による、確かな学力の向上。

③「豊かな心」をはぐくむ生活指導

- ・道徳性を高め、規範意識を向上させるような道徳教育の充実。
- ・配慮を要する児童への対応など教員間連携を強化した教育相談体制の充実。

4 研究テーマに即した具体的な取組



5 実践研究を通して

成 果	課 題
○担任の枠を超えて指導できる雰囲気さらに進み、生活指導がとてもしやすくなった。 ○教材の関連が理解でき、指導内容を明確にした指導ができた。 ○学習指導の工夫の結果として、児童の学習内容の理解が進み、学習意欲の向上につながった。	◇教科担任制において、作文指導や表現活動を系統的に行うため、他教科や総合的な学習の時間との関連を図る。 ◇緊急を要する生活指導が発生したときの対応策を作成する。 ◇課題や宿題の点検・評価については、担任間で柔軟に対応する。

今後の重点的な取組

- ★次年度に向けて、教科等と総合的な学習の時間との関連を考慮した教育課程や指導体制の検討
- ★校内における緊急指導体制の充実
- ★教員一人一人の指導内容を整理し、特定の教員の加重負担にならないための配慮

◆「兵庫型教科担任制」推進状況調査結果概要

1 平成21年度「兵庫型教科担任制」推進状況調査より

(1) 調査概要

◆調査目的	「兵庫型教科担任制」の指導体制、指導方法の確立を図る観点から、推進状況を調査し、成果と課題の分析を行う。		
◆調査時期	第1回：平成21年7月	第2回：平成22年2月	
◆調査対象	管理職：113校（実践研究校）		
	教員：113校（実践研究校）		
	児童：20校	・第1回 1,233名 ※5年619名 6年614名	
		・第2回 1,246名 ※5年618名 6年628名	
	保護者：20校	・第1回 実施せず	
		・第2回 1,028名 ※5年保護者512名 6年保護者516名	

(2) 結果概要

○「兵庫型教科担任制」の特徴である「教科担任制」「少人数授業」「組織的な生活指導」について管理職・教員・児童・保護者とも概ね肯定的に評価されている。

① 教科担任制

- ・「専門性を発揮し、指導方法の工夫を行っている」（教員：約9割）
- ・「教えてもらう先生がかわることはよいことだと思う」（児童：約8割）

② 少人数授業

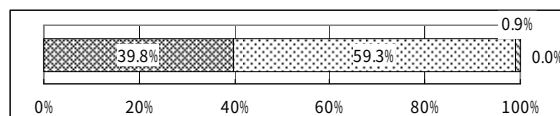
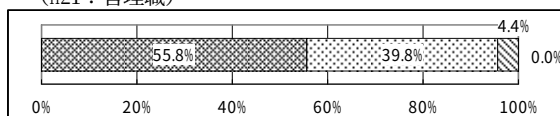
- ・「つまづきを早期に発見し対応できる」（教員：約10割）
- ・「学習理解が深まる」（保護者：約9割）

③ 生活指導

- ・「生活指導を学級担任だけでなく組織的に行っている」（管理職：約9割）
- ・「児童の生活上の課題を共有するために工夫を行っている」（教員：約9割）

高学年の担任が学年目標を共有し、協力して教育活動に取り組むなど、高学年組織の体制づくりを進めている。（H21：管理職）

教材研究を深化させ、児童の興味・関心や課題に応じた教材研究を行っている。（H21：教員）



肯定的 ← [Patterned Box] [Patterned Box] [Patterned Box] [Patterned Box] → 否定的

◇「兵庫型教科担任制」の指導システムの特性を生かし、「校内体制」「学習指導」「生活指導」等を一層充実させることが必要である。

① 校内体制の工夫

◇ 時間割調整や会議の効率化

- ・「行事、学級閉鎖、出張や年休等による時間割調整が難しい」（管理職・教員）
- ・「非常勤講師の場合、打ち合わせを行う時間がほとんどない」（教員）

◇ 小中連携の取組

- ・「中学校での学習や生活の様子について授業参観や話し合いが必要」（教員）
- ・「教育課程や指導法について小中で十分連携してほしい」（保護者）

② 学習指導の工夫

◇ 実施教科

- ・「教科選択に弾力性があれば、その学年の実態に応じて運用できる」（管理職）
- ・「他の組に合わせるのでペースが速くなったり遅くなったりする」（児童）

◇ 少人数授業

- ・「先生によって教え方が違う時がある」（児童）
- ・「複数の先生が指導される場合、指導方法等を工夫してほしい」（保護者）

③ 生活指導の工夫

◇ 教員間連携

- ・「学級担任と教科担任の連携がうまくとれないと児童の負担が大きい」（管理職）
- ・「担任以外に注意された場合、その場限りにならないフォローが必要」（保護者）

◇ 教育相談

- ・「担任の先生と勉強したり会話したりすることが少なくなる」（児童）
- ・「先生と広く浅くしかかわらないので相談する先生がいなくならないか」（保護者）

※第2回調査質問紙の内、肯定的回答が高い項目から「成果」を、記述から「課題」を抽出して掲載した。

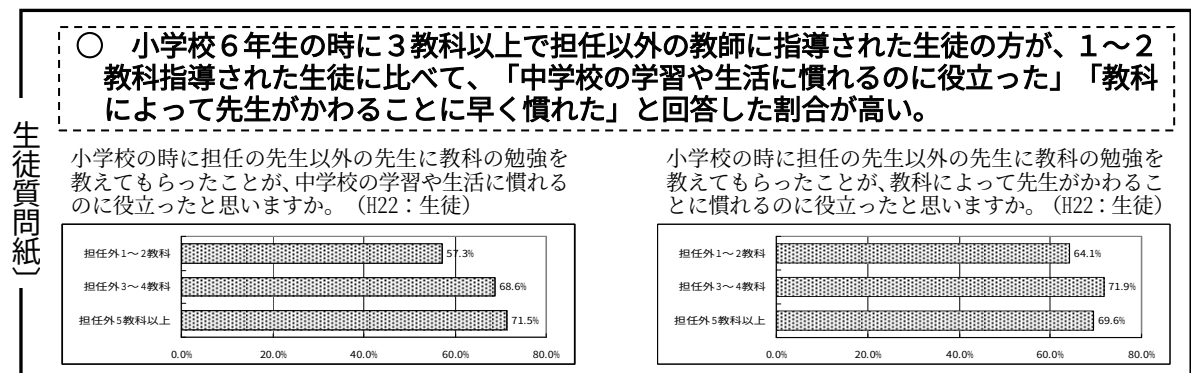
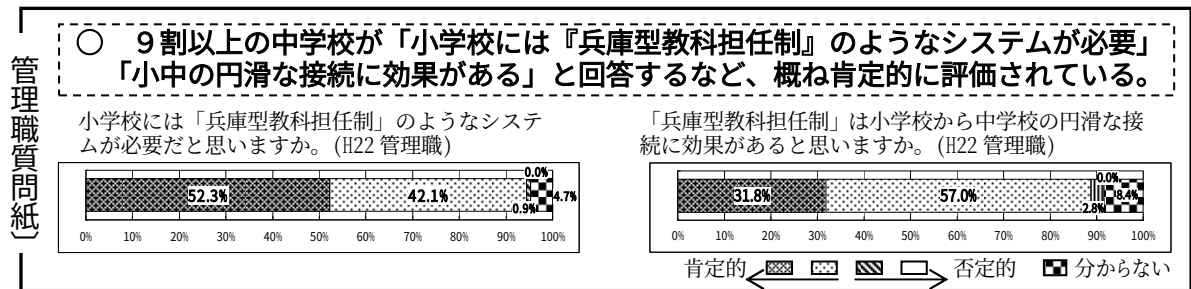
2 平成22年度「兵庫型教科担任制」推進状況調査（第1回）より

(1) 調査概要

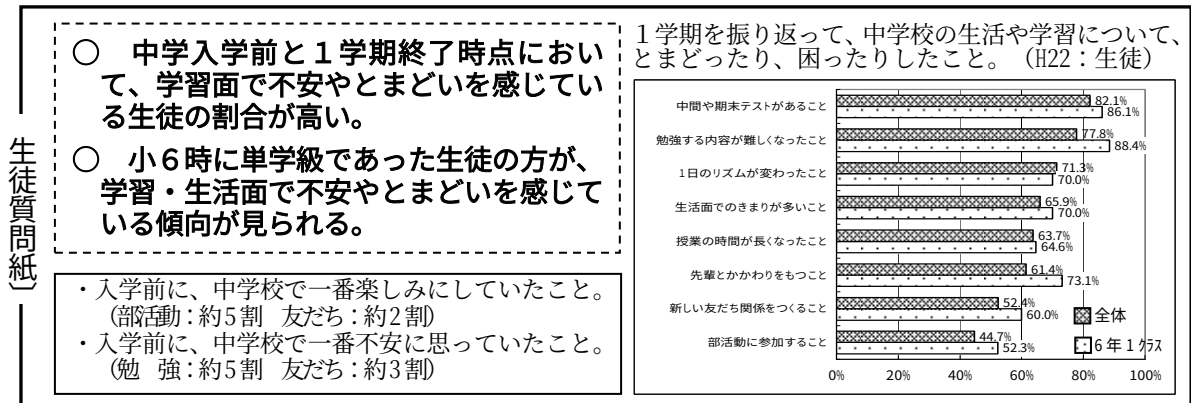
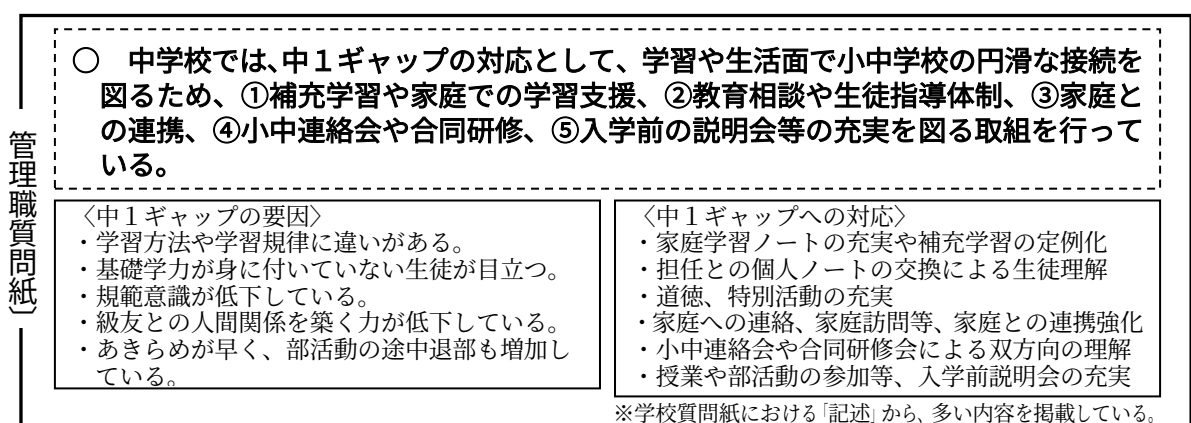
- ◆調査目的 平成21年度調査対象校の進学先の中学校1年生の学習及び生活状況等を調査し、「兵庫型教科担任制」の教育効果等の検証を行う。
- ◆調査時期 平成22年7月
- ◆調査対象 管理職：107校
 ※平成21年度「兵庫型教科担任制」実践研究校児童の進学先の中学校
 生徒：694名（兵庫型教科担任制実践研究校卒業生372名）
 ※平成21年度調査対象の小学校の進学先の中学校20校から中1の1クラスを抽出

(2) 結果概要

ア 「兵庫型教科担任制」の教育効果について



イ 中学校生活への適応について



3 平成22年度「兵庫型教科担任制」推進状況調査（第2回）より

(1) 調査概要

- ◆調査目的 実践研究の継続校と新規校の比較や継続校の経年比較により、児童・保護者の意識の変容や学校の指導体制等について成果と課題の分析を行う
- ◆調査時期 平成22年11月
- ◆調査対象 管理職：261校（平成22年度全実践研究校）
 児童：50校 1,507名 ※6年生（学年から1クラス抽出）
 保護者：50校 1,323名 ※回答した児童の保護者

(2) 結果概要

ア 全体的な状況

○「兵庫型教科担任制」の特徴である「教科担任制」「少人数授業」「組織的な生活指導」について管理職・児童・保護者とも概ね肯定的に評価されている。

- ①教科担任制
 - ・「教師の専門性を発揮した学習指導が行いやすい」 (管理職：約9割)
 - ・「よく分かる授業がふえた」 (児童：約8割)
 - ・「児童の学習に対する理解が深まる」 (保護者：約8割)
- ②少人数授業
 - ・「自分の興味やペースに応じて勉強できるようになった」 (児童：約7割)
 - ・「児童が発表や質問をしやすくなった」 (保護者：約8割)
- ③生活指導
 - ・「生活指導を学級担任だけでなく組織的にしている」 (管理職：約10割)
 - ・「担任の先生以外の先生に気軽に話ができるようになった」 (児童：約8割)
 - ・「担任以外の教員からはげましてもらったり、ほめてもらった
 りすることがふえた」 (保護者：約9割)

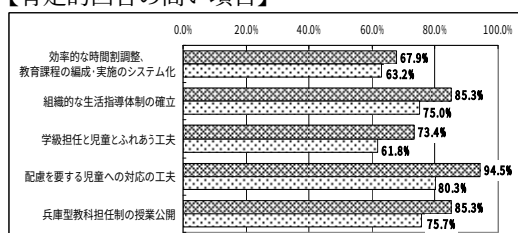
イ 継続校と新規校の比較

- 継続校は新規校に比べ、全体として管理職・児童・保護者の肯定的回答の割合が高い。
- 継続校は新規校に比べ、「教員の役割分担」「打ち合わせの時間の確保」など校内体制が整備されるとともに、児童も教科担任制を肯定的に受け止めている割合が高い。
- ◇ 継続校・新規校の取組内容では、「児童理解の深化」「校内研修の実施」の割合が低く、児童の情報共有や教員の指導力の向上を図るための取組を充実させる必要がある。

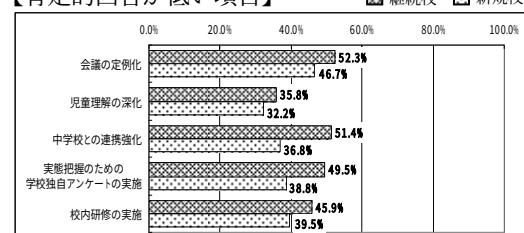
- ・「教員の加重負担に配慮した役割分担を行っている」 (管理職：新規約8割、継続約9割)
- ・「学習指導面で打ち合わせの時間が確保されている」 (管理職：新規約7割、継続約8割)
- ・「生徒指導面で打ち合わせの時間が確保されている」 (管理職：新規約9割、継続約9割)
- ・「教えてもらう先生がかわってよくわかる授業が増えた」 (児童：新規約7割、継続約8割)

◆「兵庫型教科担任制」に係る具体的な取組として実施したこと（H22：学校）

【肯定的回答の高い項目】



【肯定的回答が低い項目】



ウ 継続校の経年比較

- 継続校の経年比較では、「保護者への周知」「打ち合わせ時間の確保」などが工夫されている。
- ◇ 「中学校との具体的な連携」については、上昇傾向が見られるものの低い割合であり、今後、取組を充実させる必要がある。

- ・「積極的に保護者に周知している」 (管理職：H21約8割、H22約9割)
- ・「学習指導面で打ち合わせの時間が確保されている」 (管理職：H21約7割、H22約8割)
- ・「生活指導面で打ち合わせの時間が確保されている」 (管理職：H21約8割、H22約9割)
- ・「中学校との連携で具体的な取組を行っている」 (管理職：H21約5割、H22約6割)

※設問については、肯定的な回答の割合が特に高いもの、低いものを掲載している。

4 「兵庫型教科担任制」に関する感想・意見

校内体制	管理職質問紙		教員質問紙		児童質問紙		保護者質問紙	
	成果	課題	成果	課題	成果	課題	成果	課題
教科担任制	○児童に関する情報交換や指導法の研究が活発化した。 ○教員の学年意識が高まり、役割分担しながら協同的な対応ができるようになった。	◇行事、学級閉鎖、出張や年休等による時間割の調整が難しい。 ◇実施教科については、学校の実情に応じて選択できるようにしてほしい。	○学年間の系統性をふまえ、授業のねらいを明確にして指導できた。 ○ワークシートや実験等の諸準備に時間をかけることができ、児童の学習意欲を高める質の高い授業を行うことができた。 ◇担当以外の教科の進度、児童の学習状況等が把握しにくい。 ◇学習規律の共通理解や統一を図る必要がある。 ◇家庭学習の量の調整が必要である。	○先生の得意とする分野の授業なので分かりやすかった。 ○多くの先生と交流でき、思いや考えが分かった。 ○中学校のようならを小学校において経験できるからよかった。 ◇他のクラスと合わせるため、進度が速くなったり遅くなったりする。 ◇担任の先生とあまり会えないときがある。	○それぞれのペースに応じて勉強を教えることもできた。 ○緊張せずに質問でき、先生からも細かくアドバイスがもたらえた。 ○話し合いがしやすいし、いつもより発表ができるようになった。 ◇少しの意見しか出ず、たくさんの意見が聞けない。 ◇同じクラスなのに、別のグループと進み方が違う。 ◇もう一人の先生に質問しているうちに、授業が進んでしまう。	○多くの大人に支えられて大切にされていると感じることができ。 ○学級ではなく、学年という大きな枠が子どもに余裕を与えている。	○担任だけでなく、子どものことを見てくれる先生がいると思うと心強い。 ○いろいろな先生と触れ合い、子どもよいところを伸ばしてもらえる。 ○目が行き届き、学習の期待やいじめの早期発見などに効果が期待できる。 ◇担任に見守られている安心感や担任と子どもとの深いコミュニケーションに配慮してほしい。 ◇システムのメリット、デメリットを考えて、小学生の発達段階に合ったシステムにしてほしい。	○中学校での教科担任制にとまどわなくてすむ。 ○担任の主観による学級内での評価ではなく、学年全体の状況を踏まえた客観的な評価が得られる。 ◇学習面で相談する時、担任と教科担当のどちらに相談してよいか分からない時がある。 ◇教科担当と担任が連携し、テストだけでなく、提出物や自主学習等の状況も含めて評価してほしい。
	少人数授業	○単元により学級分割や同室複数指導を行い、きめ細かな指導を計画的に行うことができた。 ○つまづきを早期発見し、個別に対応することができ、基礎的・基本的な知識・技能の習得に効果を上げられた。 ◇学級・学年分割の場合、指導する教員の指導方法等の共通理解が必要である。 ◇学力差への対応として、児童の個別指導や補充指導が必要である。	○生活指導上の問題に協力して対応できるようにになった。 ○どの学級にも、担任外の教員がかかわりやすくなり、児童の安心感につながっている。 ◇突発的、偶発的な事案が生じた時の対応の工夫が必要である。 ◇担任が自学級の児童を深く見てやれないうちががある。	○ワークシートの内容を工夫するなど、児童の学習状況に合わせた教材づくりを行うことができた。 ○児童の学習意欲や集中力を高めることができた。 ◇教材、評価方法等についての事前の打ち合わせが必要であり、その時間の確保が難しい。 ◇児童の学習状況について情報交換する時間の確保や手立てに工夫を要する。	○それぞれのペースに応じて勉強を教えることもできた。 ○緊張せずに質問でき、先生からも細かくアドバイスがもたらえた。 ○話し合いがしやすいし、いつもより発表ができるようになった。 ◇少しの意見しか出ず、たくさんの意見が聞けない。 ◇同じクラスなのに、別のグループと進み方が違う。 ◇もう一人の先生に質問しているうちに、授業が進んでしまう。	○多くの大人に支えられて大切にされていると感じることができ。 ○学級ではなく、学年という大きな枠が子どもに余裕を与えている。	○担任だけでなく、子どものことを見てくれる先生がいると思うと心強い。 ○いろいろな先生と触れ合い、子どもよいところを伸ばしてもらえる。 ○目が行き届き、学習の期待やいじめの早期発見などに効果が期待できる。 ◇担任に見守られている安心感や担任と子どもとの深いコミュニケーションに配慮してほしい。 ◇システムのメリット、デメリットを考えて、小学生の発達段階に合ったシステムにしてほしい。	○中学校での教科担任制にとまどわなくてすむ。 ○担任の主観による学級内での評価ではなく、学年全体の状況を踏まえた客観的な評価が得られる。 ◇学習面で相談する時、担任と教科担当のどちらに相談してよいか分からない時がある。 ◇教科担当と担任が連携し、テストだけでなく、提出物や自主学習等の状況も含めて評価してほしい。
生活指導	○教員のチーム意識が高まり、生活指導上の問題を共有でき、共通理解に基づく指導を行うことができた。 ○児童の変化に気づきやすくなり、問題の未然防止・早期対応ができた。	◇配慮を要する児童への対応や家庭との連携における具体的な手立ての工夫が必要である。 ◇担任が気になる児童への個別指導に当たった時間が少なくなる場合がある。	○ワークシートの内容を工夫するなど、児童の学習状況に合わせた教材づくりを行うことができた。 ○児童の学習意欲や集中力を高めることができた。 ◇教材、評価方法等についての事前の打ち合わせが必要であり、その時間の確保が難しい。 ◇児童の学習状況について情報交換する時間の確保や手立てに工夫を要する。	○先生の得意とする分野の授業なので分かりやすかった。 ○多くの先生と交流でき、思いや考えが分かった。 ○中学校のようならを小学校において経験できるからよかった。 ◇他のクラスと合わせるため、進度が速くなったり遅くなったりする。 ◇担任の先生とあまり会えないときがある。	○それぞれのペースに応じて勉強を教えることもできた。 ○緊張せずに質問でき、先生からも細かくアドバイスがもたらえた。 ○話し合いがしやすいし、いつもより発表ができるようになった。 ◇少しの意見しか出ず、たくさんの意見が聞けない。 ◇同じクラスなのに、別のグループと進み方が違う。 ◇もう一人の先生に質問しているうちに、授業が進んでしまう。	○多くの大人に支えられて大切にされていると感じることができ。 ○学級ではなく、学年という大きな枠が子どもに余裕を与えている。	○担任だけでなく、子どものことを見てくれる先生がいると思うと心強い。 ○いろいろな先生と触れ合い、子どもよいところを伸ばしてもらえる。 ○目が行き届き、学習の期待やいじめの早期発見などに効果が期待できる。 ◇担任に見守られている安心感や担任と子どもとの深いコミュニケーションに配慮してほしい。 ◇システムのメリット、デメリットを考えて、小学生の発達段階に合ったシステムにしてほしい。	○中学校での教科担任制にとまどわなくてすむ。 ○担任の主観による学級内での評価ではなく、学年全体の状況を踏まえた客観的な評価が得られる。 ◇学習面で相談する時、担任と教科担当のどちらに相談してよいか分からない時がある。 ◇教科担当と担任が連携し、テストだけでなく、提出物や自主学習等の状況も含めて評価してほしい。

◆ 市町における小中連携の取組

〔 神戸市：小中連携モデル地区事業 〕

- 目的 小中連携に関する先導的な取組を行う小中学校を、中学校区ごとに「小中連携モデル地区」として指定し、その研究実践について支援するとともに、その成果を広く周知し、神戸市における小中連携教育をさらに推進する。
- 実施概要
 - ・全市立小中学校から公募のうえ、「小中連携モデル地区」を指定
 - ・指定の「小中連携モデル地区」の小中学校で「小中連携教育研究会」を組織し、小中学校共同で実践研究を行う。
- 主な取組
 - ・中学校教員による出前授業
 - ・小中教員の共同開発による問題プリント集の活用
 - ・合同職員研修による「小中一貫カリキュラム」の検討
 - ・行事における児童生徒の交流、小中合同での地域行事の参加

〔 尼崎市：中学校区学力向上推進モデル事業 〕

- 目的 尼崎市学力・生活実態調査の結果によると、小学校から中学校へと学年が進むにつれて学習意欲や授業理解度が低下する生徒の割合が増えるなど、学習習慣・生活習慣における課題があることから、小学校と中学校の課題の共有や連携した取組を推進することで、中学校区の学力向上を図る。
- 実施概要 2 中学校区をモデル校区として 2 年間指定し、次の内容を実施する。
 - ・校区内の課題の分析や共有などに関すること
 - ・出前授業や参観交流、合同研修会（授業研究）に関すること
- 主な取組
 - ・中学校教員による出前授業
 - ・合同研修会（中学校区の学力分析・連携の意義と可能性）
 - ・生徒指導の共通実践
 - ・不登校児童生徒の事例研究会
 - ・部活動の見学及び体験
 - ・体育大会、文化発表会等の行事における児童生徒の交流

〔 芦屋市：芦屋市小中連携研究推進事業 〕

- 目的 小中連携推進校を指定し、指導内容や指導方法に一貫性を持たせるための先進的な実践・研究を行うなど、取組のさらなる充実を図る。
- 実施概要
 - ・連携推進校の中学校区において小中連携推進委員会を設置し、具体的な方策について協議を行う。
 - ・小中連携実務担当者会を設置し、研究推進及び連絡調整を行う。
- 主な取組
 - ・小中教員の合同研修会の実施
 - ・中学校授業研究会への小学校教員の参加
 - ・全国学力・学習状況調査の質問紙調査の小中間の比較検討
 - ・児童生徒への中学進学前、進学後のアンケート調査及びその分析
 - ・次年度 1 年生及び中学生に関する生徒指導の情報交換
 - ・中学校教員が給食時間に訪問し、児童と交流
 - ・中学校の「トライやる・ウィーク」の小学校における受け入れ
 - ・小学生の中学校文化発表会及び部活動見学
 - ・中学校生徒会が小学校に呼びかけての地域清掃等の行事の実施

〔 宝塚市：幼小中連携ブロック別協議会 〕

- 目的 各中学校区における教育課題を整理し、課題解決に向けての幼稚園、小学校、中学校の情報交換及び具体的な連携について協議することにより、その具現化を図る。
- 実施概要 市内の学校園を 4 ブロックに分け、各校園 1～3 名の代表が集まり開催する。
- 主な取組

【幼小連携】	・スポーツ、給食体験交流、生活科の授業等の交流
【幼中連携】	・国語教師が幼稚園で読み聞かせ、中学校の家庭科の中で保育実習の実施
【小中連携】	・互いの教員による授業や指導（英語、体育など）
	・小学校 6 年生の中学校体験授業、部活動体験
【幼小中連携】	・人権教育ブロック別研究、人権担当の情報交換
	・オープンスクールへの相互参加
	・研修の相互参加
	・生徒指導情報の共有化及び進学に向けての引継ぎ
	・校区単位でどのような子どもを育てていくかを設定し、各学校園で実践

〔 川西市：「ふるさと思考」の育み 〕

- 目 的 市内7中学校区において、幼・小・中学校11年間を見通しながら、子どもたちの心身の発達と学習・生活の連続性を重視した教育に取り組む。
- 実施概要 子どもたちを取り巻くあらゆるヒト・モノ・コトとのかかわりをうむ地域社会。子どもたちが過ごした地域社会、言い換えれば、「中学校区」が、子どもたちにとっては「ふるさと」であり、このふるさとを思う心を大切にしたい。中学校区での幼小中連携により、子どもたちの発達を継続的・系統的に把握し適切な支援をする。
- 主な取組
 - ・中学校区ごとに、学校長及び園長と教育長との定期的な懇談会の開催
 - ・小中学校相互に授業参観、校内研修協議会への相互乗り入れ
 - ・出前授業・部活動見学、「オープンスクール」の実施
 - ・小中教師間の情報交換（校区内研究推進担当者や特別支援教育コーディネーターの実践交流）
 - ・「新学習システム（兵庫型教科担任制）」の導入

〔 三田市：生きる力育成事業 〕

- 目 的 子どもたちの連続した発達や学習が支援できるよう、家庭や地域とも連携を図りながら、全ての中学校区で保育園(所)・幼稚園・小学校・中学校の連携を推進する。
- 実施概要
 - ・市主催の「保幼・小・中連携推進に係る研修会」を管理職・担当教員を対象に年3回程度行う。
 - ・各中学校区における児童生徒の実態を共有し、学習指導・生徒指導における課題解決及び生きる力育成のための取組を推進する。
- 主な取組
 - ・連絡会等の定期的な開催、小中教員の合同研修会の実施
 - ・児童による部活動や授業、行事等の参観
 - ・教員による研究会・授業等の相互参観、中学校教員による小学校への出前授業
 - ・地域の交流行事への参加
 - ・引継ぎシートを活用した生徒指導（特別支援教育を含む）上の連携

〔 加古川市：中学校区連携ユニット12推進事業 〕

- 目 的 中学校区を一つの単位（ユニット）として、その地域の保育園、幼稚園、小学校、中学校が相互に連携し、家庭・地域とも連携を図りながら、子どもたちの連続した発達を支援する。
- 実施概要 市内の12中学校区（ユニット）において、長期的なスパンで子どもの「連続した学び」と「連続した育ち」を支援し、各中学校区の特色ある取組を推進する。
- 主な取組
 - ・就学前幼児の体験給食会
 - ・小学生の中学校訪問（オープン・ハイスクール）、部活動の見学
 - ・小中連携計算力検定、保・幼・小・中なわとびプログラム
 - ・中学校入学後の小中連絡会、保・幼・小・中美術展
 - ・小中教員の合同研修会、中学校教員による出前授業
 - ・合同の福祉活動（例：アルミ缶回収→車いすの贈与）や音楽活動
 - ・家庭・地域への啓発活動（地域行事、あいさつ運動、パトロール等）

〔 西脇市：中学校区連携教育 〕

- 目 的 各中学校区の実態に応じて保・幼・小・中の連携を図り、就学前教育も含め概ね10年間の生活や学習基盤の育成や、家庭教育力育成に係る教育情報発信が、一貫性をもって効率よく推進されることを目的とする。
- 実施概要
 - ・各中学校区で「校区連携教育推進協議会」設置
 - ・校区連絡委員会、課題別部会等の設置
 - ・中学校区ごとに、教員研修、学習・生活指導の課題解決のための取組を推進
- 主な取組
 - ・幼小中合同研修会の開催や合同先進地視察研修
 - ・出前授業（小・中）、交流授業
 - ・保幼小中合同交流会（幼小交流会・保幼小交流会・小中交流会）
 - ・オープンスクールへの相互参観
 - ・授業公開（小・中）授業研究会
 - ・小学校、中学校体験入学 授業体験 部活動体験
 - ・校区連携教育推進に係る情報発信

〔 小野市：小中連携教育推進事業 〕

- 目 的 ・ 小野市教育行政顧問川島隆太教授の脳科学の研究成果を生かした「おの『夢と希望の教育』」の中に位置づけ、「小中連携」「小学校高学年教科担任制」の授業を実施するとともに、教職員の意識改革により教育力の向上を図る。
- 実施概要 ・ 4 中学校区の特色ある小中連携教育の成果を発信し、小野市全体で質の高い小中連携教育・教科担任制を構築する。(平成 16 年度より全市で実施)
・ 小中連携と教科担任制を効果的に絡め合わせ、小中の滑らかな接続による児童生徒の豊かな成長を実現する。授業交流、児童生徒交流、共同研究、地域との協同など、主体的な実践研究を活性化する。
・ 各校での取組を授業公開するなどにより、教育力の向上を図る。
- 主な取組 ・ Kゾーン(河合中校区) … 小中一貫教育を見据えた小中連携教育の研究
・ Aゾーン(旭丘中校区) … ICT活用を核に学力向上をめざす小中連携
・ Sゾーン(小野南中校区) … 理数教育の充実を核とした小中連携
・ Cゾーン(小野中校区) … コミュニケーション能力の育成を核とする小中連携

〔 姫路市：小中一貫教育の展開 〕

- 目 的 ・ 小・中学校の教職員が協働し、義務教育9年間を見通した一貫した指導を行い、「育ち」と「学び」の適時性と連続性を重視した取組を推進する。
・ 中1ギャップ等の学校文化の違いから生じる課題を解消し、義務教育終了段階での「確かな学力」を保障する。
・ 一貫教育の推進拠点校として、小中一貫教育推進モデル校を設置し、小中一貫教育の先進的取組を行い、その成果と課題を全市に発信する。
- 実施概要 ・ 小中共通の教育目標の設定
・ 9年間を見通した、一貫した指導
・ 小中学校教職員による協働実践 } 標準カリキュラムの作成・活用
- 主な取組 ・ 推進モデル校における取組(白鷺中・白鷺小)
⇒ 同一敷地内隣接型を生かした取組、先導的な教育実践、他校への啓発
・ 各中学校ブロックにおける取組
⇒ ブロックのニーズに応じた教育実践、合同会議・合同研修会等の開催、カリキュラム、教育内容等に関する教職員の理解、授業交流や合同行事の検討・実施

〔 宍粟市：宍粟の小中一貫教育 〕

- 目 的 ・ 義務教育9年間を見通した目標を定め、子どもたちの生きる力の向上
・ 地域に対して愛着と誇りを持った子どもの育成
・ 小中一貫教育の導入を契機とした地域総がかりの学校づくり
・ 小中教職員の意識改革と資質向上
- 実施概要 ・ 学校・家庭・地域で目指す子ども像を共有化
・ 学習、生活面で計画的、段階的な指導を実現
・ 異年齢交流による良好な縦の人間関係を育成
・ 集団規模を大きくすることにより、学校にいきいきとした連帯感を醸成
- 主な取組 ・ 9年間を見通した「めざす子ども像」の策定、一貫性のある学校教育目標の設定
・ 小中教員が一体となった学習指導の工夫改善による学力向上を目指す取組
・ 生徒指導における一貫性のある指導による不登校・問題行動の改善
・ 各中学校区の特性を生かし、保護者・地域との連携による総合的な学習の時間や行事等の特色ある教育の取組

〔 豊岡市：豊岡市小中連携アクションプラン 〕

- 目 的 小・中学校9年間で「生きる力」を育むための『はばたきプラン』を策定し、すべての中学校区において、小・中学校9年間の学習や生徒指導が連続するように、お互いが連携して指導内容や指導方法の工夫・改善を図るとともに、小中引き継ぎシステムの有機的活用を推進する。
- 実施概要
 - ・ 連続性、系統性を重視した学習指導の連携
 - ・ 不登校対策を含む生徒指導の連携
 - ・ 中学校区ごとの課題解決のための取組
- 主な取組
 - ・ 4つの地域ブロック別・学年別研修会の実施（市教委と小学校長会との共催）
⇒ 授業づくり研修会、学級づくり研修会 ※どちらも中学校教員も参加
 - ・ 連絡シートを活用した「引継ぎ連携システム」
 - ・ 中学校教員による出前授業
 - ・ P T Aによる小中連携
 - ・ カリキュラム研究
 - ・ 児童生徒の実態調査

〔 丹波市：小中連携による授業改善モデル事業 〕

- 目 的 小・中学校9年間の「学びの連続性」の視点から、生徒指導や生活習慣、学習習慣の継続的な育成のあり方について、小中連携による実践研究を行い、小学校と中学校の確かな接続に取り組む。
- 実施概要 学習指導の研究に丹波市立和田小学校と丹波市立和田中学校を指定する。生徒指導の研究に丹波市立佐治小学校と丹波市立青垣中学校を指定する。小中合同研修委員会を設置し取組を推進する。
- 主な取組
 - ・ 小中学校の授業交流会の開催
 - ・ 生活アンケートの実施
 - ・ 「効果的な家庭学習の与え方」についての連携協議
 - ・ 「学習規律を育む授業改善」についての連携協議
 - ・ 「市民総がかりで進める丹波の教育フォーラム」での実践発表
 - ・ 小学校6年生の中学校訪問と授業参観
 - ・ 生徒指導合同事例研修会の開催

〔 洲本市：洲本市小中連絡協議会 〕

- 目 的 すべての中学校区において、小・中学校9年間の学習・生活が連続できるように、小中学校が連絡を図りながら、指導体制や指導方法の工夫改善及び、児童生徒の情報の共有化に取り組む。
- 実施概要
 - ・ 小中学校で「小中連絡協議会」を設置し、児童生徒の学習・生活状況の情報の共有化を図る。
 - ・ 「洲本市小・中学校人権教育授業研究会」を設置し、市全体で児童生徒の学習指導の工夫改善に向けた取組を推進する。
 - ・ 「洲本市教護委員会」を設置し、市全体で児童生徒の生活指導における課題解決、健全育成に向けた取組を推進する。
- 主な取組
 - ・ 中学校入学前後の小中連絡会
 - ・ オープンスクール時の小中教職員による相互訪問での授業参観・学校生活見学
 - ・ 小中学校連携による児童生徒の生徒指導に関する連絡会
 - ・ 小中学校教員による合同授業研修会

新学習システムのあゆみ

年度	新学習システムの推進内容
H11 年度	「新たな学習システムの在り方等に関する調査研究会」の設置 「新たな学習システムの創造をめざして」作成
H12 年度	「新たな学習システム研究協力校」において実践研究を実施（県内 46 校）
H13 年度	新学習システムの実施 ①小学校低学年における複数担任制の導入 ②小学校・中学校における少人数授業などきめ細かな指導の推進 ③小学校高学年における教科担任制の導入と少人数授業などきめ細かな指導の推進 ④小学校・中学校における少人数授業などきめ細かな指導と総合的な学習の時間の推進 ⑤中学校における少人数授業などきめ細かな指導と選択履修幅の拡大の推進 ⑥中学校におけるきめ細かな指導の推進に係る部活動の指導補助 ⑦小学校における複式学級を有するなどの小規模校の指導体制の充実等の研究 ⑧小学校・中学校における学級編制の弾力的な取扱いに係る調査研究 平成 13 年度「新学習システムのまとめ」作成委員会の設置 平成 13 年度「新学習システムのまとめ」作成
H16 年度	推進内容の変更（35 人学級） 35 人学級編制の調査・研究を 1 年生で開始（35 人学級、複数担任制の選択）
H18 年度	35 人学級編制の調査・研究を 2 年生に拡大（35 人学級、複数担任制の選択）
H19 年度	35 人学級編制の調査・研究を 3 年生に拡大（35 人学級、少人数授業の選択）
H20 年度	35 人学級編制の調査・研究を 4 年生に拡大（35 人学級、少人数授業の選択）
H21 年度	推進内容の変更（「兵庫型教科担任制」） 「兵庫型教科担任制」の実践研究を実施（実践研究校 113 校） （兵庫型教科担任制と少人数授業の選択） 「兵庫型教科担任制検討委員会」の設置 「小学校における新たな指導システム『兵庫型教科担任制』」（中間まとめ）作成
H22 年度	「兵庫型教科担任制」の実践研究を拡充（実践研究校 261 校） （兵庫型教科担任制と少人数授業の選択） 「兵庫型教科担任制検討委員会」の設置 「『兵庫型教科担任制』実践研究のまとめ」作成

平成22年度 兵庫型教科担任制検討委員会委員

○学識経験者

委員長	佐藤 真	兵庫教育大学大学院教授
副委員長	小石 寛文	神戸学院大学教授
	瀧野 揚三	大阪教育大学教授
	勝見 健史	兵庫教育大学大学院准教授
	岡部 恭幸	大阪大谷大学准教授
	日下 芳宏	兵庫教育文化研究所事務局長

○行政関係者

姫野 俊幸 神戸市教育委員会指導主事
福本 悟 播磨東教育事務所指導主事
山本 哲史 播磨西教育事務所指導主事

○学校関係者

宮井	和子	西宮市立甲子園浜小学校校長
笠原	清次	芦屋市立朝日ヶ丘小学校校長
達可	忠久	加西市立善防中学校教頭
谷垣	壮一	豊岡市立豊岡北中学校教頭
是常	眞弓	加西市立下里小学校主幹教諭
生子	恵司	洲本市立由良小学校主幹教諭
小林	久純	神戸市立長田南小学校教諭
井上	隆治	西宮市立鳴尾東小学校教諭
井澤	秀勝	小野市立小野小学校教諭
白石	将	姫路市立白鷺小学校教諭
島津	啓子	太子町立太田小学校教諭
西川	寿生	豊岡市立豊岡小学校教諭

編集発行 兵庫県教育委員会事務局義務教育課
平成23（2011）年1月発行

連絡先 〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 TEL078-341-7711 (代表)